

**令和2（2020）年度
AIIT シニアスタートアッププログラム**

事業成果報告書

令和3年3月
東京都公立大学法人
東京都立産業技術大学院大学

はじめに

世界中で経験したことがない超高齢化国家である我が国は、大きな転換期を迎えています。

こうした中、人生 100 年時代を豊かに過ごせる生涯現役都市となるための実践として、東京都立産業技術大学院大学(AIIT)は、「AIIT シニアスタートアッププログラム」を平成 30 年度より開講しています。

起業に挑戦するシニア層の方を後押しし、起業に必要とされる高いレベルの知識及びスキルを短時間で修得することを目指すプログラムにより新たな学びの場を提供することができました。令和 2 年度は、多様な経験を有する極めて熱心な 12 名の方が受講し、基礎科目、事例研究型科目、PBL 型科目に合格した 8 名の方が修了されました。

東京都立産業技術大学院大学は、専門職大学院として、広く横断的な視野で問題解決できるコンピテンシー(業務遂行能力)を身につけるため PBL(Project Based Learning)型教育を導入しています。

令和 2 年度は、「地域ビジネスを考える」をテーマとして PBL に取り組みました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により web 開催となりましたが、活発に議論を交わしながら、地域ビジネスの提案を行いました。

なお、平成 31 年 4 月より学校教育法 105 条関連規則の改正により、履修証明プログラムの総時間の要件が 120 時間から 60 時間へ引き下げられ、本プログラムは履修証明プログラムとなり、学校教育法に基づいた修了証明書が発行できるようになりました。また、令和 2 年度からは文部科学省認定の「職業実践力育成プログラム」(BP:Brush up Program for professional)として実施しています。国の政策の後押しもあり、受講生にも一層の魅力向上を図り、社会人やシニア層の多様なニーズに応えることが求められています。

本プログラムの実施にあたりまして、東京都、品川区と産業界のご協力をいただきましたことに対して、深く感謝いたします。

令和 3 年 3 月

板倉 宏昭

目次

1	事業の概要	5
1.1	事業の目的.....	5
1.2	事業の意義・必要性.....	5
1.3	事業の体制.....	6
1.4	産学公の連携.....	7
1.5	令和2年度事業の成果.....	8
2	活動報告(令和2年度)	9
2.1	運営委員会.....	9
2.1.1	第1回 運営委員会.....	9
2.1.2	第2回 運営委員会.....	9
2.1.3	第3回 運営委員会.....	10
2.1.4	第4回 運営委員会.....	10
2.1.5	第5回 運営委員会.....	11
2.1.6	第6回 運営委員会.....	12
2.1.7	第7回 運営委員会.....	12
2.1.8	第8回 運営委員会.....	13
2.1.9	第9回 運営委員会.....	13
2.1.10	第10回 運営委員会.....	14
2.1.11	第11回 運営委員会.....	14
2.2	講演会と説明会.....	16
2.2.1	第1回 AIIT シニアスタートアッププログラム講演会と説明会.....	16
2.2.2	第2回 AIIT シニアスタートアッププログラム講演会と説明会.....	16
2.3	PBL キャンプ.....	18
3	成果報告(令和2年度)	20
3.1	教育プログラム(カリキュラム及び教材開発).....	20
3.1.1	修得すべき能力.....	20
3.1.2	教育内容(授業科目等)、教育方法.....	20
3.1.3	授業期間.....	26
3.1.4	履修資格.....	26
3.1.5	成績評価方法・基準.....	26
3.1.6	修了要件.....	27

3.1.7	担当教員	27
3.2	当教育プログラム運用状況.....	28
3.2.1	オリエンテーション	28
3.2.2	東京経済事情	29
3.2.3	経営戦略要論	30
3.2.4	マーケティング要論.....	31
3.2.5	ファイナンス要論	32
3.2.6	IT イノベーション要論	33
3.2.7	事業デザイン要論	34
3.2.8	シニアスタートアップ特論	35
3.2.9	プログラム運用結果	36
3.2.10	PBL 成果発表会	37
3.3	修了アンケート結果	39
3.4	セルフアセスメントに見るコンピテンシーの向上	40
3.5	応募者数・受講者数・修了者数.....	45
付録	46
4.1	令和2(2020)年度 シラバス	47
4.2	令和2(2020)年度 募集要項	61
4.3	令和2(2020)年度 講演会 パンフレット.....	78

1 事業の概要

1.1 事業の目的

少子高齢化が進展する我が国及び先進諸国の中で、今後、我が国の経済が持続的成長を確保する為には、これまで成長を支えてきた各企業の定年退職者層及び予備軍(以下「シニア」)を、起業という選択肢と向き合い、果敢に挑戦する高度人材として育成することが不可欠である。特に、社会人の学び直しによる高度人材育成を特色とした「専門職大学院」である本学が、高齢化先進都市である東京都において、生涯教育モデルを提示することに意義がある。このため、当プログラムでは、産学公連携、すなわち大学院、東京都、産業界等が協働して、シニアを対象に、起業に必要とされる高いレベルの知識・スキルを短期間で修得できる大学院プログラムを開発・構築し普及する取組によって、シニア人材養成を図るとともに、大学院教育(修士課程レベル)でのシニア学び直しを推進する。

1.2 事業の意義・必要性

本プログラムは、起業家(アントレプレナー、イントレプレナー)や中小企業の事業承継を目指す者を受講対象としており、現実の起業・創業や、事業承継のニーズに応えることを目的としている。我が国企業数の大多数を占め経済を下支えしてきた中小企業の活性化につき、その新規創業や新事業創造に向けた起業家の教育、スムーズな事業承継や新事業展開には、成長基盤育成と共に日本経済の成長・発展にもかかる課題が多く残されている。特に、『日本再興戦略』改訂2014(新成長戦略)では、開業率の倍増計画が掲げられ、新規創業や新事業創造の担い手となる起業家の教育が大きな課題となり、その担い手としてのシニア層への起業教育は、高齢化社会進展に伴う雇用創出の側面からも重要と考えられる。本プログラムは、起業に必要な基礎的な知識・スキルを学んだ後に、不確実性高まる社会環境において、どのようなビジネスモデルが求められるか等、東京都並びに産業界と連携した実践事例を取り扱うことで、起業や事業承継を目指すシニア受講生のニーズに応える内容のプログラムであり、中小企業の活性化に寄与するものである。

また、本プログラムは、起業・創業にかかるビジネスモデルの題材として、地域に根差した課題を取り扱うこととしており、地域活性化にも寄与するものである。「日本再興戦略 2016」においても重要課題と位置づけられた地方創生については、国内構造的課題である少子高齢化と地域経済縮小化克服のためのイノベーション創造が求められており、起業家に対しても、その役割貢献が期待される処である。本プログラムは、東京都、(公財)東京都中小企業振興公社等との協力体制のもとに実施することで、地域の活性化に関連する題材を扱い、ビジネスモデルを構築するという演習型の科目を含む。受講生が地域課題に真摯に向き合い、本プログラムで獲得した知識を活用して新規ビジネス創出に

取り組み、その成果を発表することで地域に新たな知見を提供するのみならず、修了後において現実に地域に根差した起業・創業を行うこととなれば、地域振興としての効果も一層期待される処である。

1.3 事業の体制

本プログラムでは、「AIIT シニアスタートアッププログラム運営委員会」を設置し、事業推進体制を構築した上で、事業を推進している。協議の場としての運営委員会は以下の役割等を担当し、年間 12 回程度開催する。

- 当事業の運営統括(計画・進捗・成果の確認等)
- カリキュラム、授業科目の内容に関する議論
- プログラムの仕組みに関する議論
- シニアの学び直しのための環境に関する議論

表 1: AIIT シニアスタートアッププログラム運営委員会 委員名簿

団体名	職名	氏名	備考
東京都立 産業技術大学院大学	学長	川田 誠一	アドバイザー
東京都立 産業技術大学院大学	事業設計工学コース 教授	板倉 宏昭	委員長
東京都立 産業技術大学院大学	産業技術研究科長 創造技術コース 教授	橋本 洋志	委員
東京都立産業技術大 学院大学	OPI 長 創造技術コース 教授	越水 重臣	委員
東京都立 産業技術大学院大学	特任教授	戸沢 義夫	委員
東京都立 産業技術大学院大学	事業設計工学コース 教授	三好 祐輔	委員
東京都立 産業技術大学院大学	情報アーキテクチャコース 教授	三好 きよみ	委員
東京都立 産業技術大学院大学	管理部長	裏田 勝己	委員

1.4 産学公の連携

当事業での産学公連携(支援内容等)を以下に示す。

- 授業への実務家講師派遣
- 実証授業への参加を通じた専門的知見の提供
- 地域における現状の課題、成功事例・失敗事例・ノウハウの提供、調査
- 授業、イベントへの施設提供
- シニア受講生の募集

《産学連携の実績》

本学では、以下に示す運営諮問会議、OPI 等の活動により、産学連携を積極的に行ってきた。

- 〈運営諮問会議〉
本学では、産業界のニーズを把握し、教育内容に反映したり、また産業界と連携して教育研究を効果的に実践したりするために、本学が人材育成を行う産業分野の専門家、企業の経営者等の学外委員から構成される運営諮問会議を本学開学の 2006 年から設置している。運営諮問会議からは、産業界からみた本学の教育研究体制、運営体制、本学教育カリキュラムの妥当性、修了生のキャリアパス、教員の研修、PBL プロジェクトの共同実施等の本学教育運営体制に関する広範な課題等に関する答申が提出される。提出された答申は、本学の中期計画、年度計画に反映されている。
- 〈OPI(オープンインスティテュート)〉
本学 OPI は、本学の教育研究成果を広く社会に還元するとともに、地域・産業界のニーズにタイムリーに応じたカリキュラムを提供する場として、また、地域・産業界との交流の場として設置された組織である。また、地域の企業が自社の研究所を OPI に開設し、社員・学生・大学教員等から構成されるプロジェクトを結成して研究開発を行う活動も行っている。

これらの取り組みから、本学では産学連携が行われる環境が整っている。これらの体制・実績から、当事業で設置する協議の場としての運営委員会には、社会人学び直しと、事業創出に関する経験を重視し、委員を決定している。また、実証授業への参加、実務家教員の派遣、受講生募集では、東京都との連携に加え、運営諮問会議等の本学と各種の産学連携を行っている企業にも協力を依頼している処である。

1.5 令和2年度事業の成果

令和2年度は、昨年度同様に、大学院修士課程レベルの教育プログラムを行った。PBL 及び事例研究の教育効果を高めるため、産業界から講師(専門家)を招聘して、集中型の PBL キャンプを開催した。また事業成果(進捗)報告等は、PBL 成果発表会開催、報告書で行う。当事業の成果を以下に示す。

- 本プログラムの運用
- PBL キャンプ(2日間)
- 運営委員会開催 11 回

2 活動報告（令和2年度）

2.1 運営委員会

2.1.1 第1回 運営委員会

- 日時：2020/04/15(水) 11:00-12:00
- 場所:web 開催
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好きよみ教授
 - 裏田管理部長
 - 宮林管理課長
- 次第
 - 委員紹介
 - 委員長の選任
 - 入試体制について
 - オリエンテーション及び基礎科目の実施方法について
 - 年間予定について

2.1.2 第2回 運営委員会

- 日時：2020/05/13(水) 11:00-12:00
- 場所:東京都立産業技術大学院大学 259 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 橋本研究科長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授

- 三好祐輔教授
- 三好きよみ教授
- 裏田管理部長
- 宮林管理課長
- 次第
 - オリエンテーション及び基礎科目の実施方法について
 - 募集要項について
 - シラバスについて
 - 講演会及び説明会式次第について
 - PR パンフレットについて

2.1.3 第3回 運営委員会

- 日時: 2020/06/12(金) 11:00-12:00
- 場所:web 開催
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好祐輔教授
 - 三好きよみ教授
 - 裏田管理部長
 - 宮林管理課長
- 次第
 - 年間予定について
 - 広報について
 - 講演会と説明会の実施について
 - 第1回講演会と説明会の web 開催の報告について

2.1.4 第4回 運営委員会

- 日時: 2020/07/07(金) 14:00-14:30
- 場所:web 開催

- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好祐輔教授
 - 三好きよみ教授
 - 裏田部長
 - 宮林管理課長
- 次第
 - 授業コンテンツについての問い合わせ対応について
 - 職業実践プログラムにおける外部委員について
 - 開講要件について
 - 非常勤講師の時間の考え方について
 - 予算について
 - 出願状況について

2.1.5 第5回 運営委員会

- 日時: 2020/08/04(火) 11:00-11:35
- 場所:web 開催
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好祐輔教授
 - 三好きよみ教授
 - 裏田管理部長
 - 宮林管理課長
- 次第
 - 予算について
 - オリエンテーションについて
 - PBL キャンプについて

- 受講生同士の対面による交流について
- 昨年度 PBL 成果発表会について

2.1.6 第6回 運営委員会

- 日時: 2020/09/30(水) 11:00-11:25
- 場所:web 会議
- 出席者
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好祐輔教授
 - 三好きよみ教授
 - 裏田管理部長
 - 宮林管理課長
- 次第
 - 基礎科目(選択科目)の合否判定について
 - 事例研究型科目の受講選考について
 - PBL オリエンテーションについて
 - 昨年度 PBL 成果発表会について
 - PBL キャンプについて
 - 自己点検・評価について

2.1.7 第7回 運営委員会

- 日時: 2020/11/4(水) 16:00-16:30
- 場所:web 開催
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好祐輔教授
 - 三好きよみ教授

- 裏田管理部長
- 宮林管理課長
- 次第
 - 事例研究型科目の可否について
 - PBL 型科目の受講選考について
 - 昨年度 PBL 成果発表会及び PBL オリエンテーションについて
 - PBL キャンプ(アイデアソン)について
 - 2020 年度成果発表会について
 - 授業評価アンケート結果(基礎科目(選択科目))について

2.1.8 第8回 運営委員会

- 日時: 2020/12/02(水) 11:00-11:30
- 場所:web 開催
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好祐輔教授
 - 三好きよみ教授
 - 裏田管理部長
 - 宮林管理課長
- 次第
 - 2020 年度成果発表会についてについて
 - PBL キャンプ(アイデアソン)実施報告について
 - 授業評価アンケート結果(事例研究型科目)について

2.1.9 第9回 運営委員会

- 日時: 2020/01/26(火) 11:00-11:30
- 場所:web 開催
- 出席者
 - 川田学長

- 越水 OPI 長
- 板倉教授
- 戸沢特任教授
- 三好祐輔教授
- 三好きよみ教授
- 裏田管理部長
- 宮林管理課長
- 次第
 - 2020 年度成果発表会のタイムスケジュールについて
 - 令和2(2020)年度 AIIT シニアスタートアッププログラム外部評価委員会の実施について
 - 特定一般教育訓練の講座申請の結果について

2.1.10 第10回 運営委員会

- 日時: 2021/02/18(木) 14:00-14:20
- 場所: web 開催
- 出席者
 - 川田学長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好祐輔教授
 - 三好きよみ教授
 - 裏田管理部長
- 次第
 - 基礎科目(東京経済事情)の合否判定について
 - PBL 型科目の合否判定について
 - 修了判定について
 - 令和3(2021)年度の実施方法及び日程について
 - 自己点検・評価(案)について

2.1.11 第11回 運営委員会

- 日時: 2021/03/23(火) 11:00-11:20
- 場所: web 開催

- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好祐輔教授
 - 三好きよみ教授
 - 裏田管理部長
 - 宮林管理課長
- 次第
 - 令和3(2021)年度講演会・説明会の開催について
 - 令和3年度における基礎科目(東京経済事情)の講師について
 - 授業評価アンケート結果(基礎科目(東京経済事情))について
 - 授業評価アンケート結果(PBL 型科目)について
 - 修了アンケート結果について
 - 令和2(2020)年度 AIIT シニアスタートアッププログラム外部評価委員会実施報告について

2.2 講演会と説明会

2.2.1 第1回 AIIT シニアスタートアッププログラム講演会と説明会

- 日時:2020/05/30(土) 13:00-16:00
- 場所:web 開催
- スケジュール
 - 13:00-13:05 開会挨拶 川田 誠一 氏 (東京都立産業技術大学院大学 学長)
 - 13:05-13:55 基調講演 「スタートアップとは何かーその技術と資本の実際」
川田 尚吾 氏 (投資家)
(株式会社ディー・エヌ・エー 顧問)
 - 14:00-14:50 特別講演 「大企業とスタートアップのオープンイノベーション」
加藤 由将 氏 (東急株式会社 フューチャー・デザイン・ラボ
課長補佐)
 - 14:50-15:40 パネルディスカッション「プロジェクト学修(PBL)を通じての学び」
(パネリスト) 東京都立産業技術大学院大学創造技術専攻 2019 年度修了生
AIIT シニアスタートアッププログラム 2018 年度修了生
AIIT シニアスタートアッププログラム 2019 年度修了生
(モデレーター) 戸沢 義夫 東京都立産業技術大学院大学 特任教授
 - 15:45-16:00 令和2年度AIITシニアスタートアッププログラム説明
板倉 宏昭 東京都立産業技術大学院大学 教授

- 会場の模様



2.2.2 第2回 AIIT シニアスタートアッププログラム講演会と説明会

- 日時:2020/05/30(土) 13:00-16:00
- 場所:web 開催
- スケジュール
13:00-13:05 開会挨拶 川田 誠一 氏 (東京都立産業技術大学院大学 学長)
13:05-13:55 基調講演「R&D 活動の障害」

西 美緒 氏（東京都立産業技術大学院大学客員教授）
（元ソニー株式会社業務執行役員上席常務）

13:55-14:45 特別講演 「シニア起業のチャンスは異業種にある」

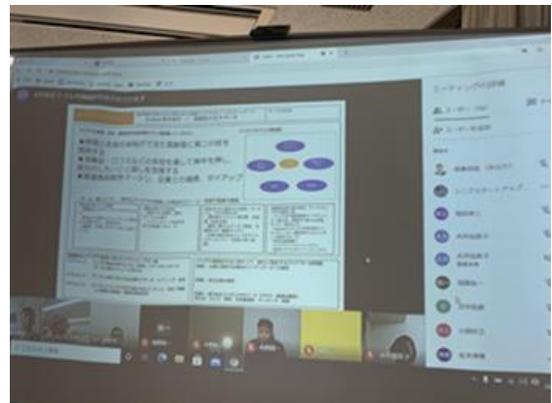
宇喜多 義敬 氏（宇喜多白川医療設計株式会社 代表取締役社長）
（国立大学法人山梨大学客員教授）

14:45-15:00 令和2年度AIITシニアスタートアッププログラム説明

板倉 宏昭 東京都立産業技術大学院大学 教授

2.3 PBL キャンプ

- 日時:2020/11/22(日)～11/23(月・祝)、別途 2020/11/7(土)18:30-21:40 東京都立産業技術大学院大学にてオリエンテーション実施
- 場所:web 開催
- 講師:剣持 勝 氏（イーリゾート 代表）
- 参加者:板倉 宏昭 氏（東京都立産業技術大学院大学 教授）、戸沢 義夫 氏（東京都立産業技術大学院大学 特任教授）ほか外部講師2名、受講生 12 名
- 実施の様様



- 教材資料:以下資料抜粋

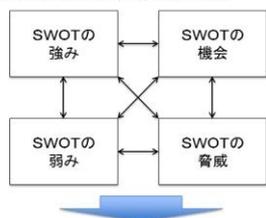
1-2, PBLキャンプ実施内容（2）

時間	プログラム	詳細
2020年11月22日		
08:45	準備・確認	オンラインワークショップ環境の確認と資料の配付
09:00~10:30	課題の明確化（根底問題発見）	①各分野（教育、オタク）で、各自が気付いた課題の共有と、その課題が解決した際のキヤップ（好転商）の大きさな課題の選り出し（1〜2課題） ②対象課題に対するTOCでの現状構造ツリーの作成による根底問題の発見
10:45~12:00	課題の根底問題把握と解決の糸口	③対象課題の根底問題を解決すると思われるアイデア出し ④時代法や逆説法などのアイデア確認シートでの確認 ⑤課題を放置した状況と課題解消した状況の比較シート作成での、事業重要度確認
13:00~14:30	ニーズ確認深掘りからの事業施策企画	⑥ニーズ確認シートでの事業企画同き合作り（1〜2企画）と検討での取り込み ⑦企画案と同じ事業が現在の理由を探るSWOT分析 ⑧SWOT分析結果を活用してのクロス分析での「具体的な施策企画」作り
14:45~16:15	コアコンピタンス明確化	⑨クロス分析の共有でのコアコンピタンスのイメージ化 ⑩3C分析でのコアコンピタンスと事業の存在価値確認
16:30~18:30	事業企画の未来像	⑪事業案に対するTOCでの未来構造ツリーの作成と移行ツリー作成での「事業を始めたあとの課題」の把握（戦略マップ作成準備）
2020年11月23日		
09:00~10:30	ビジョン作り	⑫事業企画のビジョン作り（目標数値も作成し、事業企画実行価値を再確認）
10:45~12:00	ストーリーの紡ぎ出し	⑬他の事業や他の地域との差別化の背景となる「物語」の紡ぎ出しの糸口発見
13:00~16:45	戦略マップ作り① 戦略マップ作り②	⑭戦略マップ作成開始 ⑮戦略マップの丸め図完成
17:00~17:30	事業発表	⑯戦略マップへの目標数値記入、目標値に合わせたオペレーティング等の修正 ⑰各チーム事業案の発表（10分）、質疑応答（5分）

5-2-2, クロス分析のしかた〜チームで取り組む事業案の絞り込み

1. SWOT分析で書いたポストイットを2枚選び出して、事業案をA4シート上に作る
2. 出来上がった事業案から、「取り組みたい案」を選ぶ

【考え方：SWOT分析の活用での創出】

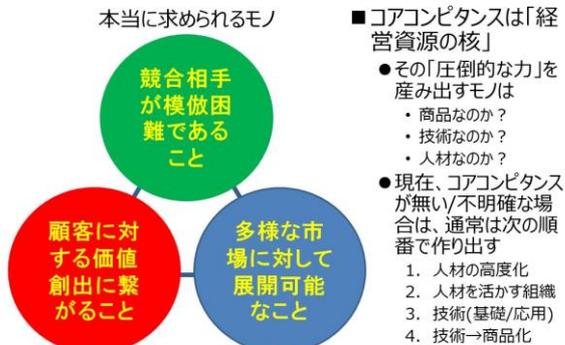


戦略案・施策案(事業案)作り

【クロス分析 作成シート例】

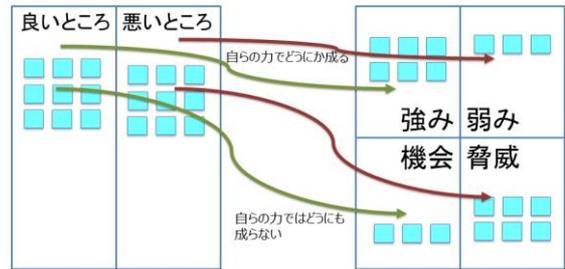
SWOT1 クルマがないと 島内観光が できない	SWOT2 祭り・イベントで 組織や事業者が 連携できていな かった
事業案 繁忙期やイベント時のみの「擬似 ウーバー事業」を実施する会社 を、地域組織と連携して起業	
備考	

6-2, 求めるモノはコアコンピタンス（ちょっと良いだけは×）



5-2-2, 東京の課題の明確化：SWOT分析のしかた

1. まずは課題対象の「良いところ」と「悪いところ」をポストイットで書き出し、模造紙に貼る
2. 次に「自らの力」でどうにか成るのか成らないのかで、再分類



5-2-3, クロス分析のポイント

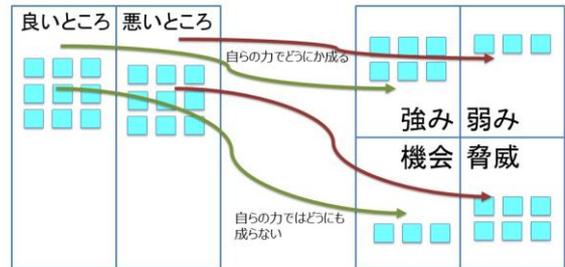
	強み	弱み	「強み」×「強み」	「弱み」×「弱み」
機会	「強み」×「機会」 自らの強みを最大限に活かして市場の機会を勝ち取るには？	「弱み」×「機会」 自らの弱みを補える市場の機会到来によって、何を創り出せるか？	「強み」×「強み」 自らの強みを2重にすることで、圧倒的な事業や商品を生み出すことはできるか？！	「弱み」×「弱み」 マイナス×マイナスが結果的に「他に無いもの」を生み出すことにならないか？！
脅威	「強み」×「脅威」 自らの強みによって、市場や競合の脅威を逆に機会に変えるには？	「弱み」×「脅威」 自らの弱みが、市場や競合の脅威と相まって、最悪のシナリオを描かないようにするために？	「強み」×「弱み」 自らの強みによって、市場や競合の脅威を生み出す機会に変えるには？	「機会」×「脅威」 自らの弱みが、市場や競合の脅威と相まって、最悪のシナリオを描かないようにするために？

組合せによって作り出されるもの：基本形
組合せによって作り出されるもの：応用1

1. SWOT分析で書いたポストイットを2枚以上、3枚でも4枚でも使う
2. SWOT分析で書いたポストイットに良いのが無ければ、その場で作ってもOK（何枚でも作ってOK）

5-2-2, 東京の課題の明確化：SWOT分析のしかた

1. まずは課題対象の「良いところ」と「悪いところ」をポストイットで書き出し、模造紙に貼る
2. 次に「自らの力」でどうにか成るのか成らないのかで、再分類



3 成果報告（令和2年度）

3.1 教育プログラム（カリキュラム）

本プログラムは、戦略・IT 技術・マネジメント等の融合型プログラムであり、本プログラムのための科目（講義 5 科目、事例研究・PBL 2 科目）から構成される。教育プログラムの体系を以下に示す。

3.1.1 修得すべき能力

本学運営諮問会議の答申によれば、今後期待される人材像として、自ら新しい事業を創出できるイノベーション高度人材が挙げられている（運営諮問会議 平成 25 年度 答申）。スタートアップが創出するイノベーションは、IT 技術等を駆使し、新しい事業を開発し、マネジメントすることができてはじめて本当の変革を実現できる。

したがって、修得すべき知識・スキルは以下に示すように戦略、マネジメント、IT 技術を中核に多岐にわたる。

- 戦略・マーケティング（経営、スタートアップ、イノベーション等）
- マネジメント（タスク・プロジェクト、人材・組織、ファイナンス）
- 先端基盤技術としての IT 技術（クラウド、アプリ、AI、ブロックチェーン等）
- 地域における対象分野の業務知識・現状・課題（観光・物販・医療等の各種業種）
- メソッド・ツール（リーン、課題管理、コラボレーション等）

3.1.2 教育内容（授業科目等）、教育方法

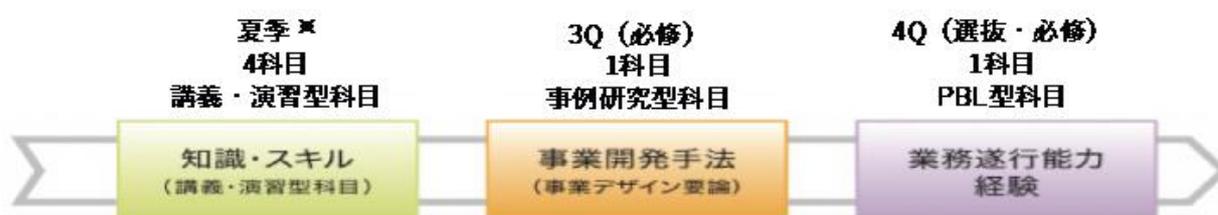
本プログラムのカリキュラムは、以下の 3 段階から構成される。授業科目一覧は表 3 を参照されたい。

- 基礎科目の講義・演習型科目 3 科目以上（必修である東京経済事情を除き、2 科目以上を選択必修）
シニア起業家に必要とされる知識・スキルの修得・定着
- 事例研究型科目 1 科目（必修）
事例研究及び事業設計による事業開発手法の修得
- PBL (Project Based Learning) 型科目（必修） 1 科目

地域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトの実行

本プログラムのカリキュラムは基礎科目、事例研究型科目、PBL 型科目で構成される。

まず基礎科目で、シニア起業家としての知識・スキルと、地域の現状・課題等を講義・演習型科目で学ぶ。次に事例研究型科目で各種の事例から事業開発手法を学ぶ。そして最終段階の PBL 型科目では、業務遂行能力の修得を目的に、これまで学んだ知識・スキル・事業開発手法を活用・駆使して、対象地域の現状から課題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。本プログラムの履修の流れを下図で示す。



※必修科目の東京経済事情を除く。東京経済事情は、夏季から4Qに及ぶ

図 1: 履修の流れ

基礎科目群として、必修科目である東京経済事情を除く4科目は、2科目以上の選択必修科目であり、事例研究型科目である事業デザイン要論の履修前に修了する必要がある。また、PBL 型科目であるシニアスタートアップ特論の履修前には、事業デザイン要論を修了する必要がある。

《基礎科目：講義・演習型科目》

基礎科目では、シニア起業家に必要とされる知識・スキルの修得・定着のため、講義・演習型5科目を設定する。

- 〈オーダーメイド型カリキュラム〉

シニア受講生は、既に修得している知識・スキル、及び現在までのキャリアが様々であり、また高度人材としての目標も（アントレプレナー、イントレプレナー、事業承継等）様々であるため、当教育プログラムでは、すべての科目を固定の必修科目とするのではなく、各学生のキャリアプランに対して必要とされる知識・スキルを修得できるように、基礎科目群から独自の履修計画を設計する仕組みを取る（オーダーメイド型カリキュラム）。

- 〈大学院レベルの知識体系・知識単位〉

当教育プログラムの授業科目は、履修によって修得可能な到達レベルが明確に設定されている。学生は、オーダーメイドの履修計画を作成する段階、実際の授業科目の履修の段階等、各自が修得する必要がある知識がどの程度修得できているかという達成度を常時確認するこ

とができる。

- 〈学修効果を高める教育手法〉

単に知識の修得だけでは無く、実際に業務で活用できる事例に基づいた講義・演習・グループワーク・録画授業による反復学修を、科目別に最も適した構成で取り込んだ教育手法を採用する。

《事例研究型科目》

事業デザイン要論では、MBA 等で活用されているケーススタディ、ケースメソッド等の手法を参考に、本学にて開発した事例研究型教育手法によって事業開発手法を学ぶ。

- 〈PBL 型教育を意識した独自教材〉

本授業は、本学にて開発した独自教材の事例に基づいて、(フェーズ1)学生による事前準備、(フェーズ2)小グループでのグループディスカッション、(フェーズ3)クラスディスカッションという流れで授業を展開し、各種の事例に対する要因分析から、情報分析、問題解決のスキルを駆使して、戦略立案、実現可能性の検証、意思決定の訓練を行い、PBL 型教育に対する準備とする。

《PBL 型科目》

実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)が不可欠である。本科目では、地域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL (Project Based Learning) 型授業を行う。

- 〈業務遂行能力(コンピテンシー)〉

本学が提唱する「コンピテンシー」に類似する概念には、仕事、多くの職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を意味する「社会人基礎力」、問題解決・交渉・モチベーションアップ等の非定型の対人的技能を意味する「ソフトスキル」等がある。本プログラムでは、シニア起業家に必要とされる業務遂行能力として、「7つのコアコンピテンシー」、さらにこれらの源として「3つのメタコンピテンシー」を設定している。

- 〈大学院レベルの PBL〉

本学では、2006 年の開学時から PBL 教育を行い、PBL の教育手法を積極的に開発してきており、PBL 活動を通常の大学院の修士論文(研究活動)相当に位置付けている。学生は、原

則2年次の時間のすべてをPBLに使う。PBL教育は、医学・看護等の分野で先行して活用されているが、他の大学等では、既存の教材にしたがったシミュレーションだったり、数単位相当の時間であったりすることが多いが、本学のPBLは、大学院レベルの質・量で、実務に近い相当規模のプロジェクトを行うことが特徴である。企業・自治体等の外部組織と連携したり、成果を論文として発表したりするPBLも多数ある。

- 〈PBLのメンバー構成〉

通常の業務では、単独で問題解決にあたることは稀で、通常は複数メンバーからプロジェクトが構成される。本学PBLでも、これを反映し、5名程度のメンバーからプロジェクトを構成し、問題解決のために協働作業を行う。シニア受講生が多数を占める本プログラムでは、構成メンバーの職業・職位・経験等は様々で、経験を積んだ技術者やデザイナー、教員、一流企業の部長級というメンバー構成等、タスクタイプ多様性あるチーム構成が実現する。各PBLチームには3名の教員が指導にあたる。

- 〈成果・過程・評価〉

通常の業務プロジェクトは、成果はもちろんであるが、計画に従った進捗管理も要求される。本学PBLでも、プロジェクト計画を作成し、計画的に作業したり、計画を修正したりすることによってプロジェクト管理を体験する。PBL型科目の成績は、3名以上の教員で評価点を付け、成績評価を決定する。評価点は、あらかじめシラバスに明記された基準への達成度による評価に基づき、PBLの「成果」及び「活動状況」を「質」及び「量」から評価を行う。

表2に、本プログラムの科目の概要、表3に、授業科目一覧を示す。

表2 科目の概要

授業科目名	英語	担当教員	内容
東京経済事情	Tokyo Economic Situation	板倉 宏昭、 ゲスト講師	活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く東京の経済事情を学ぶ。行政の政策やスタートアップ企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。
経営戦略要論	Strategic Management	原田 保	本講義は実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するために、インタラクティブな場の構築が期待される。また、特に重視される戦略は、コンテキストからの戦略デザインである。これによって、コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得ができるようになる。

マーケティング要論	Marketing	城 裕昭 鈴木 宏幸	本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識だけではなく、実践的な「分析力」と「創造力」を養う必要がある。本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を習得するだけではなく、演習を通してマーケティングに必要なマーケティング・マインドを養っていく。さらに、現代社会の潮流を分析した上で、今後のマーケティングの中で重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会について考察していく。
ファイナンス要論	Venture Finance	三好 祐輔	本講義の目標は、経営者の立場で必要なファイナンスの基礎を修得することである。企業が起業から事業成長する過程で、どのような資金調達手段があり、資金提供を受けるにはどのような要件を満たす必要があるかを学ぶ。本講義を通して、企業財務に関する実践的知識・スキルの取得と問題発見と解決・提案力を培えるように支援する。また、本講義では、ベンチャーキャピタル等のアントレプレナーに独特のファイナンスと、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの領域においてアントレプレナーに有用なもの、双方について学ぶ。

IT イノベーション要論	IT Solutions	戸沢 義夫 三宅 由美子	今後の情報社会情報システムの役割は、データ取り込みと情報共有手段としての役割がさらに重要となる。専門家でなくても容易にクラウド活用できるサイボウズ社の Kintone を用いて、システム構築を試みる。身近なテーマを選んで Kintone による情報システム構築を行う以外に、最近話題になっているテーマ(ブロックチェーンや人工知能など)について解説する。
事業デザイン要論	Business Design	戸沢 義夫 亀井 省吾	既存の事業開発・事業改革の事例(ケース)を研究する。事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを擬似経験する。ビジネス環境の変化はどうか、ステークホルダーは誰か、ビジネスモデルはどうか、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らして、どのような課題があるかを明確にする。与えられた事例に対して、チームで検討し、結果をプレゼンテーションする。
シニアスタートアップ特論	Project Based Learning	板倉 宏昭 戸沢 義夫	当科目では、スタートアッププログラムの最終段階として、社会の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL(Project Based Learning)型の演習授業を行う。

表 3 授業科目一覧

種類	科目名	授業時間数
基礎	東京経済事情	12
	マーケティング要論	12
	ファイナンス要論	12
	IT イノベーション要論	12
	経営戦略要論	12
事例研究	事業デザイン要論	12
PBL	シニアスタートアップ特論	12

3.1.3 授業期間

本プログラムは8月に始まり、翌年2月に終わる。授業期間は、概ね以下の通りである。授業時間は、社会人の学び直しを考慮し、原則として、平日の夜間及び土日昼間に授業を開講している。

- 東京経済事情：8月から2月中旬までの8回
 - 基礎科目（東京経済事情除く）：8月から9月末までの8回
 - 事業デザイン要論：10月に8回
 - シニアスタートアップ特論：12月から1月下旬までの8回*
- * 2月に補講2回実施

また、欠席者へ授業録画等の仕組みを活用した。

3.1.4 履修資格

日本の4年制大学を卒業した者、またはこれに準ずる者。

3.1.5 成績評価方法・基準

成績評価は100点満点での評価点を参考に、以下表にしたがい合否判定を行う。

表 4 成績評価

判定	評価点	成績
合格	100点から90点	5
合格	89点から80点	4
合格	79点から70点	3
合格	69点から60点	2
不合格	59点から1点	1
不合格	0点	0

厳格で一貫した成績評価を行い、教育の質を保証するため、以下の成績評価及び基準を設定する。

- 科目ごとに成績評価 5 あるいは4にあたる「上位到達目標」、成績評価 3 あるいは 2 にあたる「最低到達目標」という到達目標を設定し、これらに準拠した絶対評価を行う。各科目の到達目標はシラバスで公開する。
- 成績評価は原則として、授業の目的及び到達目標に則した複数の方法で行う。成績評価の方法及び比率(「課題レポート 30%、発表 30%、試験 40%」等)はシラバスで公開する。
- 成績評価の方法に出席点に相当するものは無い。

3.1.6 修了要件

東京経済事情含む基礎科目 3 科目以上を修了し、事業デザイン要論、シニアスタートアップ特論を修了すること(内訳は下表参照)。

表 5 修了要件

科目群	備考	種別		
		必修	選択 必修	選択
基礎科目(東京経済事情)		○	—	—
基礎科目群(東京経済事情以外)	4 科目から選択	—	2 科目	○
事業デザイン要論	事例研究型科目	○	—	—
シニアスタートアップ特論	PBL 型科目	○	—	—

修了要件の最小総授業時間数(基礎科目 3 科目、事業デザイン要論、シニアスタートアップ特論) 60 時間(12 時間× 5 科目)である。

3.1.7 担当教員

表 6 に、当プログラムの授業担当教員一覧を示す。このほかに、「東京経済事情」、「シニアスタートアップ特論」等では産業界、公共機関からゲスト講師等を招聘する。

表 6 担当教員

教員名	専任	実務家	当事業で担当する講義	学位・業績・経歴
板倉 宏昭	○	○	東京経済事情、シニアスター	本学事業設計工学コース教授、

教員名	専任	実務家	当事業で担当する講義	学位・業績・経歴
			トアップ特論	博士(学術)、元(株)日本IBM等
戸沢 義夫		○	IT イノベーション要論、事業デザイン要論	本学特任教授、理学修士、元(株)日本IBM等(Distinguished Engineer・コンサルタント等)
原田 保		○	経営戦略要論	一般社団法人地域デザイン学会理事長、元(株)西武百貨店取締役(企画室長等)等
城 裕昭			マーケティング要論	高千穂大学経営学部准教授、中小企業診断士、一級販売士、ITコーディネータ
鈴木 宏幸			マーケティング要論	NTT データユニバーシティ
三好 祐輔	○		ファイナンス要論	本学事業設計工学コース教授、経済学博士
三宅 由美子			IT イノベーション要論	博士(知識科学)
亀井 省吾		○	事業デザイン要論	福知山公立大学地域経営学部教授 博士(学術)、元東京海上日動火災保険(株)等(Venture Capital等)

3.2 当教育プログラム運用状況

3.2.1 オリエンテーション

- 日時:2020/8/9(日・祝) 13:00-16:00
- 場所:web 開催
- 受講生:12名

オリエンテーション



2020年8月9日日曜日13時～16時
 東京都立大学法人
 東京都立産業技術大学院大学

経営戦略要論

▶ 講義概要

実践的視角から講義を展開する。実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するインタラクティブ講義。特に重視される戦略は**コンテキストからの戦略デザイン**。コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、**コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得**を目指す。

▶ オンデマンド (録画授業)

▶ 8月11日、18日、9月1日、15日 (すべて火曜6・7時限)
 前日18時までに録画授業が視聴できるので、各回レポートを提出する(翌週月曜日23時55分まで)

▶ 講師：原田保

(地域デザイン学会理事長)
 早稲田大学政治経済学部卒業。西武百貨店取締役企画室長、香川大学経済学部教授、多摩大学ルネッサンスセンター教授等を経て現職。
 専門は戦略研究、文化評論。著書は、『戦略的パーソナル・マーケティング』『ブランドデザイン戦略』『ソシオビジネス革命』『無形資産価値経営』等多数。



5

事業デザイン要論

▶ 講義概要

実際の事業開発・事業改革の事例(ケース)を**チーム**検討する。事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、**事業マネジメントを疑似体験**する。ビジネス環境の変化はどうか、ステークホルダーは誰か、ビジネスモデルはどうなっているか、**ビジネスプロセス**等を正しく把握する。**ビジネス目標、経営戦略**に照らして、どのような課題があるかを明確にし、結果を**プレゼンテーション**する。

▶ 開講日程 (予定)

10月～11月 (合計8コマ、12時間)。

▶ 講師：戸沢義夫 (本学名誉教授)

(本学産業技術研究科客員教授)
 福知山公立大学教授。中央大学総合政策研究科博士後期課程修了。博士(学術)。東京海上火災保険(株)、投資銀行等にてベンチャーキャピタル投資職掌を経て現職。
 本学講義「情報システム論2」など担当。



10

3.2.2 東京経済事情

- 日時:2020/8/12(水),9/9(水),9/30(水),10/28(水),11/11(水),12/2(水),2021/1/13(水),1/27(水) 19:00-20:30
- 場所:web 開催

東京経済事情 (必修)

▶ 講義概要

活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、広く東京の経済事情を学ぶ。各界マネジメントのパーズペクティブから捉えられた現状から、受講生各人が起業を考えるに当たり、どのような未来を描き、どのような課題を解決していきたいのかを考えるヒントを得ていくことを目的としている。

▶ 各回講義予定

公益財団法人東京都中小企業振興公社
 品川区地域振興部
 大手民間企業、スタートアップ関連民間企業その他

▶ 原則オンライン、講師によりオンデマンド (録画授業)

▶ 初回講師：川田誠一

東京都立大学法人副理事長
 東京都立産業技術大学院大学 学長
 一般財団法人品川ビジネスクラブ理事長
 APEN (Asia Professional Education Network) 会長
 8月12日(水曜日) 19時00分～20時30分
 オンライン 講義内容：技術倫理



ITイノベーション要論

▶ 講義概要

現在の情報社会では、**各種の業務で情報システムを活用することが増加**している。従来の情報システムの役割はデータ管理と定型業務の自動化による効率化が主であった。しかし**今後はデータ取組と情報共有手段としての役割が重要**になっている。最近では情報システムの専門家だけでなく**業務に精通**していれば、容易にクラウドを活用してシステム開発できるようになった。身近なテーマを選んでKintoneによる情報システム構築を行う以外に、Kintoneに関わる技術としてクラウド・コンピューティングとAI (Artificial Intelligence) について解説する。

▶ 講師：戸沢義夫

(本学名誉教授、特任教授)
 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程単位取得満期退学、理学修士(物理学専攻) 1979年、日本アイ・ピー・エム入社、情報戦略コンサルティングを専門とする。Distinguished Engineer。2006年に産業技術大学院大学教授に就き、情報アーキテクチャ専攻長等歴任。



▶ 講師：三宅由美子

(本学認定登録講師)
 北陸先端科学技術大学院大学 博士 (知識科学)



シニアスタートアップ特論 PBL(Project Based Learning)

▶ 講義概要

- ✓ チームを作り、ひとつのテーマについて3カ月かけてプロジェクト成果を出す。
- ✓ どんな成果を出すか、どのように進めるかは、チームで議論し、自分たちで考えて**自主的**に決める。
- ✓ 発表会で発表し評価をもらう。

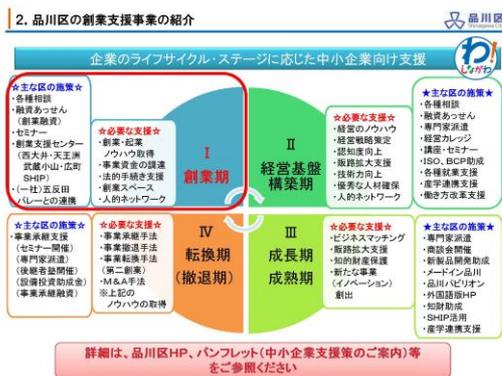
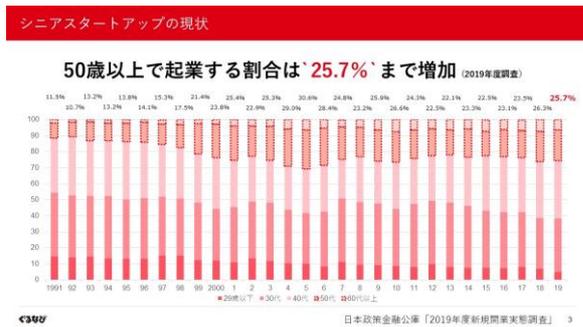
▶ 開講日程 (予定)

12月～2月 (合計8コマ、12時間)

19

- 受講生:12名

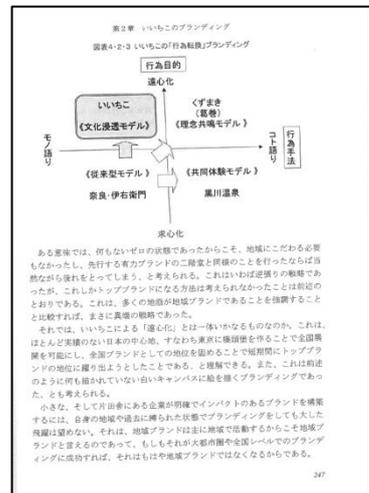
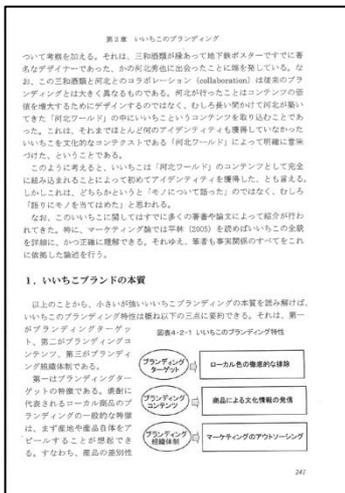
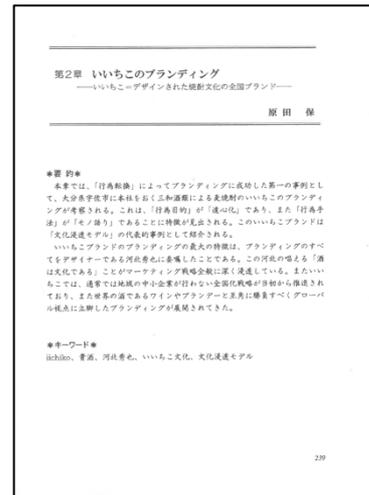
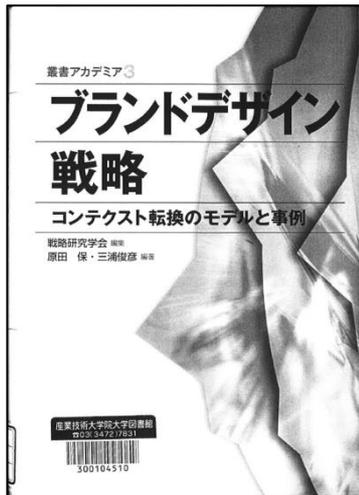
活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く東京の経済事情を学ぶ。行政の政策やスタートアップ企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。



3.2.3 経営戦略要論

- 日時:2020/8/11(火),18(火),9/1(火),9/15(火)
- 場所:ビデオ受講
- 受講生:10名

本講義は実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するために、インタラクティブな場の構築が期待される。特に重視される戦略は、コンテキストからの戦略デザインである。これによって、コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得ができるようになる。



3.2.4 マーケティング要論

- 日時:2020/8/23(日),9/6(日),20(日),27(日)
- 場所:ビデオ受講
- 受講生:7名

本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を習得するだけでなく、演習を通してマーケティングに必要なマーケティング・マインドを養っていく。さらに、現代社会の潮流を分析した上で、今後のマーケティングの中で重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会について考察していく。

I. 事業に対する想いを伝え、共感してもら

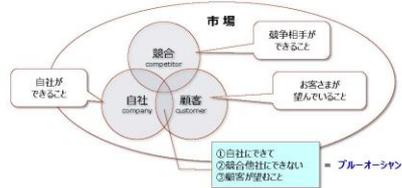
「想い」をまとめ、自分の「戦場」を見極めるパートである。
 魚釣りの極意：一場所、二エサ、三仕掛け。
 ビジネスの極意：自分の思い描く事業イメージを踏まえながら、どの戦場なら勝てるのかを見極めること。



44

「競合他社の動向」をまとめる

ブルーオーシャンはどこにあるか？



33

Startupの目的



Startupには明確な目的が存在する
 「○○○のために○○○を実現する！」
 それがStartupのビジョン(Vision)

出典：The Lean Startup P.34-35に引用 10

マーケティングとイノベーションの関係

- イノベーション⇒ 物事の「新結合」「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」などを創造すること。
 ⇒ 新しい見方や考え方で資源を活用して新しい価値を生む
- マーケティング⇒ 「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにすること」。
 ⇒ 顧客のニーズを知り、事業を通して顧客価値を提供する



デジタルマーケティング

- コンテンツ** ⇒ 動画・画像・ブログ・ホワイトペーパー・Eブック・インフォグラフィックス
- We bサイト** ⇒ ECサイト・コーポレートサイト
- モバイルサイト** ⇒ ECサイト・コーポレートサイト・スマホアプリ・モバイルアプリ
- ソーシャルメディア** ⇒ 電子掲示板・ソーシャルブックマーク・カスタマーレビュー (Facebook /Twitter /LINEなど)
- Eメール** ⇒ メッセージ・ライティング・企画・広告
- 顧客DB** ⇒ CRM・RFM・顧客分析/活用
- オムニチャネル** ⇒ 実店舗 & EC & ソーシャルメディアで連携: デジタル会員・デジタルポイント
- SEO** ⇒ Search Engine Optimization, 検索エンジン最適化
- リスティング広告** ⇒ 検索連動型広告・コンテンツ連動型広告
- I o t** ⇒ Internet of Things, モノがインターネットで接続され相互に制御する仕組み

● 論点1 コンテンツマーケティングの目的は何か

アメリカのコンテンツマーケティングインスティテュートによる定義
 "Content marketing is a strategic marketing approach focused on creating and distributing valuable, relevant, and consistent content to attract and retain a clearly-defined audience — and, ultimately, to drive profitable customer action."
 コンテンツマーケティングとは、適切で価値ある一貫したコンテンツを作り、それを伝達することにフォーカスした、戦略的なマーケティングの考えです。見込み客として明確に定義された読者を引き寄せ、関係性を構築し、最終的には利益に結びつく行動を促すことを目的とする。



3.2.5 ファイナンス要論

- 日時: 2020/8/30(日), 9/6(日), 13(日), 20(日)
- 場所: ビデオ受講
- 受講生: 8名

本講義では、ベンチャーキャピタル等のアントレプレナーに独特のファイナンスと、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの領域においてアントレプレナーに有用なもの、双方について学ぶ。

資本構成の理論:負債を利用させることの意義とは...

- 負債利用をさせることで、経営者にプレッシャーを与え(経営者を規律付ける:コーポレートガバナンス)、負債返済のために経営者に企業価値の最大化をさせる誘因を与える。他に節税の効果もある。

↓

- 資本構成の理論を応用。e.x.LBO,MBO

5

◎資本構成の主要な理論の紹介 (Harris and Raviv(1991))

- MM理論(Modigliani and Miller(1958))...完全市場では企業価値は資本構成とは無関係であるという理論。企業が重視すべきは実物投資。市場メカニズムが働くことと裁定(arbitrage)が働くので、株主資本と負債の合計の値は変わらない。⇒資金調達方法は企業価値に影響を及ぼさない! But 現実の経済では、市場メカニズムが働いている保証はない(e.x.価格の硬直性etc)。

7

負債をすることのデメリットはないのか...

- 負債をすることが当たり前と経営者に思われると、経営者はそれほどプレッシャーを感じなくなりはないか?
- 有利子負債(銀行借入や社債発行)を削減しないと毎期の営業活動によるCFが減少するため、投資機会があっても積極的な成長投資を行えなくなるか?
- ⇒負債を無限に増加することはあり得ない。

6

◎資本構成の主要な理論の紹介 (Harris and Raviv(1991))

- トレードオフ理論...企業の最適資本構成は、負債の税効果と倒産コストのトレードオフによって決まる...税金(Debt(+))。
- 企業が負債で調達した場合、債権者への支払利息は課税所得から控除される。But株主への配当は、税引き後利益より支払われるため、控除対象とならない。
- ⇒負債比率を高めることで、支払利息の課税所得控除(節税)分だけ、企業価値が高まる。

8

◎資本構成の主要な理論の紹介 (Harris and Raviv(1991))

- エージェンシー理論...企業内部者と外部投資家の情報の非対称性に注目し、エージェンシーコスト(経営裁量権エージェンシーコストと負債エージェンシーコストの2種類)によって決まる。
- ⇒しかし、債権者にとってみれば、債権者と経営者・株主との利害不一致は高まり、負債エージェンシーコストは上昇。
- ⇒少数特定者持株比率が高い企業は、負債を利用する誘因が下がる。

13

◎資本構成のペッキングオーダー理論の実証研究の検証方法とは...

- 内部資金が黒字の場合、企業は借入を減らしているのか?
- 内部資金が赤字の場合、企業は借入を増やしているのか?
- ⇒将来発生する資金調達コストを低減させるため、企業はコストが最も低い内部留保を厚くし、自己資本を増加させる誘因を持つ。
- ちなみに、内部資金=配当+設備投資+運転資本純増額+1年以内返済長期負債残高-利払-税引後営業キャッシュフロー

15

◎ペッキングオーダー理論(Myers and Majluf(1984)とMyers(1984))

- ペッキングオーダー理論
- 既存投資家と新規投資家との間の企業に対する情報非対称性から派生するコストに注目し、企業が内部留保、社債発行・借入、増資の順で資金調達を行うという理論...既存の株主にとって、増資することで自身の株式価値が希薄化するのは嫌。
- But小規模な成長企業が株式調達を頻繁に行う理由を説明するのが困難(Fama and French(2002))。

14

◎資本構成理論のまとめ

- 学説では、株主利益の最大化を前提とした既存の最適資本構成理論(トレードオフ理論)で、日本企業の資金調達行動を説明するのは困難。
- 先行研究(池尾・広田(1992),Shyam-Sunder and Myers(1999), Frank and Goyal(2003), Fama and French(2002),辻(2002))
- 最近では、「企業の存続確率の最大化仮説」「銀行・メインバンク借入依存の継続仮説」という、資本構成とは別の仮説で説明しようとする模索中?

16

3.2.6 IT イノベーション要論

- 日時:2020/8/23(日),30(日),9/13(日),27(日) 13:30-16:45
- 場所:web 開催

- 受講生:8名

現在の情報社会における情報システムの役割として、データ取り込みと情報共有側面がさらに重要になってくる。本授業では、専門家でなくても容易に業務で活用できるサイボウズ社のクラウドを活用したKintone を活用し、情報システムを構築する。また、最近話題になっているテーマ(ブロックチェーンや人工知能など)について解説する。

スレッドを使ってみる

次の質問に回答してください

質問1 Kintoneの事前知識は？

1. 特になし
2. Webや書籍などで勉強した
3. Kintoneを使ったことがある

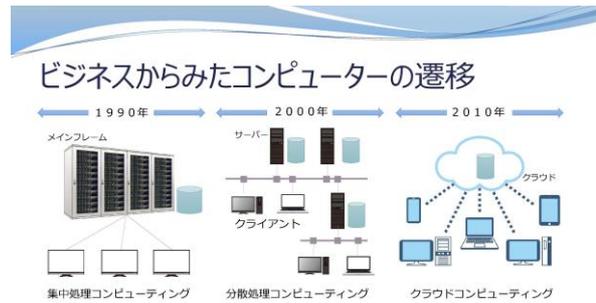
質問2 マクロやプログラミングの経験は？

1. 特になし
2. 業務などで経験したことがある
3. IT技術者として経験したことがある

質問3 どんな仮想企業が作りたいですか？

質問3を回答後、休憩を交えながら15:15まで基本操作説明ガイドなどを参考にして個人ワークを行ってください。質問はスレッドに入力してください

34



ビジネスとは何か (いろいろな定義があるが...)

- 仕事＝他人のためになることをする
- ステークホルダーのニーズを満たすと、お金を払ってもらえる
- 売り手よし、買い手よし、世間よし (近江商人)
- ビジネスは繰り返してである
 - 信用
 - ビジネスモデル
 - プロセス
- 他社との差別化
 - 繰り返しを上手にやれるかどうか
 - ステークホルダーのニーズを正しく把握できるかどうか
 - 新しいマーケットを創造できるかどうか
 - 競争しない、ブルーオーシャン戦略
 - ...

3

人工知能とは何か？

- 人工知能のやさしい説明(人工知能学会)
<https://www.ai-gakkai.or.jp/whatsai/AIwhats.html>
- 人間の知能そのものをもつ機械を作ろうとする立場
ニューラルネットワーク
 - 人間が知能を使っていることを機械にさせようとする立場
 - ◆ プログラミング
 - ◆ 「知識」を用いた推論(第2期ブーム)
エキスパート・システム
 - ◆ 機械学習
多量のデータを統計処理(データ・サイエンティスト)
 - ◆ 機械学習(第3期ブーム)
深層学習(ディープラーニング、画像認識)
強化学習(囲碁や将棋など)

7

3.2.7 事業デザイン要論

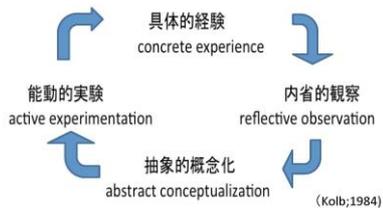
- 日時：2020/10/10(土) 18:30-21:40, 18(日) 13:00-16:15, 10/25(日) 13:00-16:15, 31(土) 18:30-21:40
- 場所:web 開催
- 受講生 12名

既存の事業開発・事業改革事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業

マネジメントを擬似経験する。ビジネス環境変化、ステークホルダー、ビジネスモデル、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らし、どのような課題があるかを明確にする。チームで検討し、プレゼンテーションする。

事例研究(ケース・メソッド)のねらい

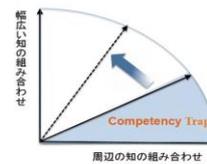
個人がその職業生活を通じて経験できることには限界。
擬似体験につき、多様なもの見方で経験学習サイクルを回すことにより、新しいパースペクティブ(視野)を獲得する。



事業デザイン要論2019

3

Knowledge Exploration



出所: 入山崇 日経2014/7/21経済教室を加工

2018事業デザイン要論

7

Element Process of Case Method

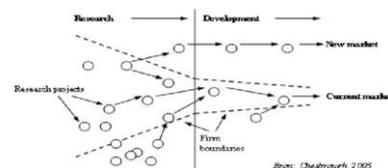


出典: 梶井道吾, 小山聡司, 戸根義夫, 森崎寛『PBL(アクティブラーニング)形成と学習人材の多様性』一橋大学大学院で学ぶ人文学部(事業)からの発信 | 情報処理学会 情報教育シンポジウム SSS2016 下巻巻尾巻頭を加工

2018事業デザイン要論

12

Open Innovation Platform



出所: Chesbrough 2005

Source: Chesbrough, H. (2003), "Open Innovation: The New Imperative for Creating and Profiting from Technology", Harvard Business School Press.

研究開発スピード加速によるR&D戦略の変化

- 研究開発スピード加速により、大手企業のR&D戦略が変化



事業デザイン要論2019

シリコンバレーのビジネスエコシステム



出所: 相山泰生(2016)「ビジネスエコシステムとは何か——その定義と背景を学ぶ」
<https://businessecosystem.unisys.co.jp/definition-of-ecosystem-01/>

事業デザイン要論2019

3.2.8 シニアスタートアップ特論

- 日時: 2020/12/6(日), 20(日), 2021/1/10(日), 1/24(日), 補講 2/7(日), 2/21(日) 13:00-16:15
- 場所: web 開催
- 受講生9名

当科目では、スタートアッププログラムの最終段階として、社会の現状から問題を特定し、現実の課題

に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL(Project Based Learning)型の演習授業を行う。



PBLの進め方と提出物

- コアミーティングの実施【12/6,12/20,1/10,2/7,2/21】
 - 中間レビュー報告会:発表各10-20分【1/24】
 - 成果発表会:発表各20-30分【2/28】(予定)
 - プロジェクト成果物の提出【2/末 manaba経由】
- 個人として
 - 週報の提出【11/24-2/28 ★隔週 manaba経由】
 - セルフアセスメントの提出【12/6,3/1】
 - 相互評価の提出【2/末】

PBL活動の心得

- 個人活動ではなく、**チーム活動**である。
- 知識や技術を漫然と享受するのではなく、**自ら学修**する。
- 問題解決に必要な知識や技術を**自主的に学修**する
- 知識の応用方法を学び、問題解決のための**知恵を創造**する。
- グループ活動による**アイデアの発展・展開**を重要視する。
- チームメンバー同士の**相乗的学修効果**を体験する。
- プロジェクト活動の**プロセスと成果物**によって評価される。
- 計画と実績に乖離が生じた時の対応が重要である。

3.2.9 プログラム運用結果

本プログラム科目の履修状況は以下表7のとおり、基礎科目においては、受講生全員が必修にて受講する東京経済事情以外の選択必修4科目について、1科目平均約8名が受講し、必修選択2科目に合格した12名が事例研究型である事業デザイン要論に進んだ。更に、事業デザインに合格した12名の内、9名がPBL型科目であるシニアスタートアップ特論に進み、最終的に8名が本プログラムを修了した。授業評価アンケートによると、5段階評価で3.77の評価平均となっている。尚、担当講師には結果をフィードバックしつつ、講義内容の一層の改善を促している。

表7 令和2年度プログラム受講者の集計

	履修者数	授業評価	合格者
東京経済事情	12	3.81	12
経営戦略要論	10	3.59	10
マーケティング要論	7	4.29	7
ファイナンス要論	8	3.40	8
ITイノベーション要論	8	3.60	8

事業デザイン要論	12	4.22	12
シニアスタートアップ特論	9	3.48	8

3.2.10 PBL 成果発表会

令和2年度シニアスタートアップ特論のチーム構成は、「東京都の地域課題を解決するビジネスを考える」をテーマとしてタイトル別に2チーム。各チームの進捗については、担当教員によるコアミーティングの他、産業界及び公共機関等で構成される外部評価委員を招聘した中間レビューにおいて、プレゼンテーションを実施し、意見交換を行っている。

表 8 令和2年度 PBL

	人数	タイトル
教育チーム	3名	DX 社長道場主
オタクチーム	5名	シニアスキルのフリーマーケット

《オタクチーム》

- タイトル: 「DX 社長道場主」
- 内容: 以下、資料抜粋

2021/2/28

中小物流企業にDXを！失職懸念社会人に稼ぐ力を！

DX社長道場主

産業技術大学院大学
シニアスタートアッププログラム
Team-“教育”
古宇田 田中 野中 (五十音順)

～Final edition～

【1】事業コンセプト

異業種で稼ぐ力を得た戦力部隊を、物流業界に！

街中に失業者が溢れかえっていた1929年世界大恐慌の時さえ、当時勃興しつつあったホワイトカラー職は深刻な人手不足であった。今まさに、足元のコロナ禍と産業革命4.0+Society5.0同時進行の只中で、雇用や就業のミスマッチ解消こそ喫緊の社会課題の一つ。

DX推進 ← 稼ぐ力

就業ミスマッチ
Less tragedy, no tragedy drama

産業特化 ← リカレント再教育 → 再教育重点

【2】当社概要～なぜ物流？

DX人材供給

DX

道場主に寄り添ったアナログからデジタル移行

スマート物流

リアルタイム情報
顧客との共有情報
(商標を解決)
システム間データ連携

DX人材供給

DX

道場主に寄り添ったアナログからデジタル移行

スマート物流

リアルタイム情報
顧客との共有情報
(商標を解決)
システム間データ連携

【3】顧客理解～Before・After

Before	After
安全運転・事故防止を徹底 ドライバーの労働時間把握 配車にかかる時間を短縮 到着時刻問い合わせ対応 運搬日程や点検記録の作成 荷待ち・荷役時間の削減 業務上の緊急応変リアルタイム 物流の情報を役主と共有 集荷車・積載車の効率化 電子データによるデータ活用	低配送効率等
ハズレ作成と手入力 日報転記と手入力 従来注FAXの手入力 各システムごとの再入力 尺・集計等各システム個別処理 個人的事務処理手帳 電子データによるデータ活用	紙の山・アナログ中心
	既存・特定 DX 製品 ハンズオン部隊 当社新規組成
	日報手書き事務 全廃 集計・ルート作成コスト ▲20% 停車時間 ▲20% タコグラフからの履歴事務 ▲50% 事務工数 ▲50%

3.3 修了アンケート結果

アンケート結果は、評価平均が満足度 4.43、起業貢献度 4.29 と比較的高い一方、修了自慢度及び知人推薦度は 3.71 に止まっている。また、本プログラムの特徴への満足度は、受講費 4.57、知識スキル修得 4.29、インターネット視聴 4.29、PBL4.14、日曜開講 4.14 と高くなっている。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため来学禁止としていたことから、図書館、設備等(教室等)及び学生間の人間関係は低くなっている。次年度以降は、オンライン又はビデオ受講による講義の質をブラッシュアップするなど、プログラムの充実を一層図っていくことが肝要と認識している。

表 9 プログラム受講満足度

	評価平均	回答者数	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
満足度	4.43	7	4	2	1	0	0
起業貢献度	4.29	7	4	2	0	1	0
修了自慢度	3.71	7	2	1	4	0	0
知人推薦度	3.71	7	2	1	4	0	0

表 10 プログラムの特徴に関する満足度アンケート

	評価平均	回答者数	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
PBL	4.14	7	2	4	1	0	0
知識スキル修得	4.29	7	3	3	1	0	0
コンピテンシー獲得	4.00	7	2	3	2	0	0
平日夜間開講	3.71	7	2	2	2	1	0
土曜開講	3.86	7	2	3	1	1	0
日曜開講	4.14	7	2	4	1	0	0
3段階制	4.00	7	2	3	2	0	0
8月開講	3.43	7	1	2	3	1	0
インターネット視聴	4.29	7	3	3	1	0	0
受講費	4.57	7	4	3	0	0	0
図書館	2.43	7	1	0	3	0	3
設備等(教室等)	1.86	7	0	0	3	0	4
学生間の人間関係	2.86	7	1	0	3	3	0

【自由記述】

〈あなたが本講座での学習や経験などを通じて得られて良かったと思うものを、順番に書いてください。
(例:スキルアップ、人脈、コミュニケーション能力等コンピテンシー、知識等)〉

- ・コミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション力
- ・コンピテンシー
- ・知識
- ・受講生、教員・講師との繋がり
- ・東京都の創業支援の内容

〈本学がより良くなるためのご提案が有れば、具体的に書いてください。(教育内容、教育制度、PR方法、設備等)〉

- ・PBL等、人との交流・対話、ふれあいが最も重要と思われる。Withコロナを想定し、基本的な3密対策等を整備し、対応できる範囲で対面授業を再開・継続し、Webとのバランスをとってほしい。
- ・シニアのスタートアップ、というテーマに向け、本当に今の授業構成でよいかについて、棚卸をした方がよいと思う。
- ・社会的認知の更なる高まりを強く要望。
- ・今年度は学校施設・設備が殆ど使用できなかったが、立派な施設・設備があるので、新型コロナウイルス禍が終わった後は、本学施設内での教育が望まれる。
- ・IT、プログラミングを学ぶニーズが高まっているので、文科系の人でも学べるITに特化したコースがあるとよいと思う。

3.4 セルフアセスメントに見るコンピテンシーの向上

3つのメタコンピテンシー(コミュニケーション能力、継続的学習と研究の能力、チーム活動)をセルフアセスメントにより測定している(n=7)。3つのメタコンピテンシーすべてでPBL前より、3か月後のPBL後のほうが高い。

コンピテンシーの向上は、すべての評価項目で、平均値の差の検定(paired t-test)の結果、統計的に有意となっている。

コンピテンシーの向上は、「継続的な学修と研究の能力」、特に、「中長期的な計画」で最も大きな向上となった($\Delta = 1.29, p < .001$)。例えば、「失敗したり、研究が行きづまったりしても、安易に学修やプ

プロジェクトの目標を変更せず、目標を実現できる手段を、分析から導き出す論理性と根気をあわせ持つ。」で向上幅が大きい($\Delta = 1.71$, $p < .001$)。課題に対して、あきらめずに継続的に学修する研究能力を身に着けることができたと考えられる。

一方、コミュニケーション能力のうち「リーダーシップ」は、向上の値は小さくなっている($\Delta = 0.90$, $p = .007$)。例えば、「議論において、発散技法や収束技法など適切な手法を選択的に用いつつ、プロジェクトの効率、およびメンバーの心的状態を適切な状態に保つよう建設的に議論を誘導(ファシリテーション)できる。」は、統計的に有意であるが向上は小さい($\Delta = 0.71$, $p = .047$)。リーダーシップの育成には、様々な経験が必要とされる。シニアスタートアッププログラムのPBLの3か月では短く、期間が必要かもしれない。

	PBL 前	PBL 後	増減 Δ
コミュニケーション能力	2.86	3.86	+1.00
—コミュニケーション	2.81	3.90	+1.10
—リーダーシップ	2.90	3.81	+0.90
継続的学習と研究の能力	2.76	3.88	+1.12
—中長期的な計画	2.71	4.00	+1.29
—問題発見解決	2.81	3.76	+0.95
チーム活動	2.83	3.83	+1.00
—学際的チームワーク	2.90	3.90	+1.00
—多様性の理解と技術倫理	2.76	3.76	+1.00
コンピテンシー計	2.82	3.86	+1.04

シニアスタートアッププログラム 2020 年度修了生 N=7 人 (1 名未提出)

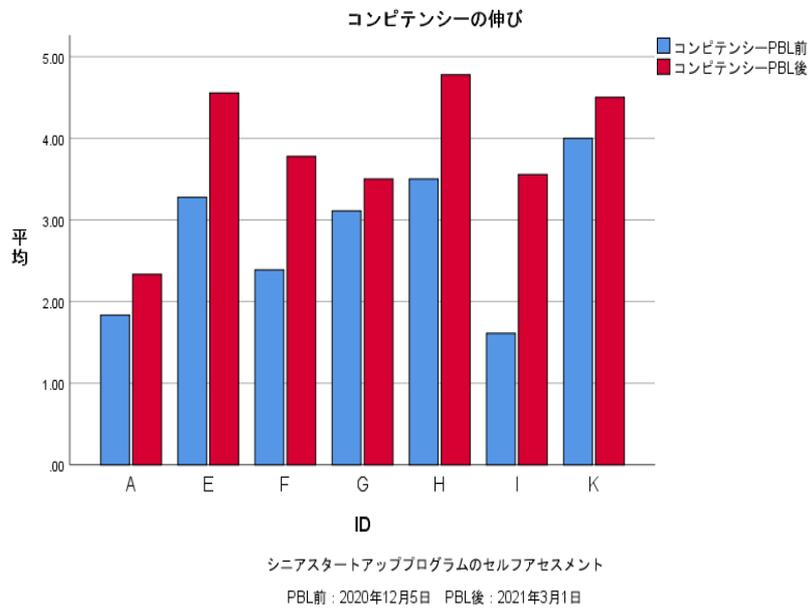
PBL 前:2020 年 12 月 5 日締切 PBL 後:2021 年 3 月 1 日締切

対応サンプルの検定

		対応サンプルの差			有意確率 (両側)
		平均値	標準偏差	t 値	
ペア 1	コミュニケーション PBL 後 - コミュニケーション PBL 前	1.09524	.78680	3.683	.010

ペア 2	リーダーシップ PBL 後 - リーダー シップ PBL 前	.90476	.59982	3.991	.007
ペア 3	中長期的な計画 PBL 後 - 中長期 的な計画 PBL 前	1.28571	.40500	8.399	.000
ペア 4	問題発見解決 PBL 後 - 問題発見 解決 PBL 前	.95238	.70523	3.573	.012
ペア 5	学際的チームワーク PBL 後 - 学 際的チームワーク PBL 前	1.00000	.74536	3.550	.012
ペア 6	多様性の理解と技術倫理 PBL 後 - 多様性の理解と技術倫理 PBL 前	1.00000	.96225	2.750	.033
ペア 7	コミュニケーション能力 PBL 後 - コミュニケーション能力 PBL 前	1.00000	.62361	4.243	.005
ペア 8	継続的学修と研究の能力 PBL 後 - 継続的学修と研究の能力 PBL 前	1.11905	.55037	5.379	.002
ペア 9	チーム活動 PBL 後 - チーム活動 PBL 前	1.00000	.83887	3.154	.020
ペア 10	コンピテンシーPBL 後 - コンピ テンシーPBL 前	1.03968	.58594	4.695	.003

すべての受講生のコンピテンシー向上が報告されている。



3.5 応募者数・受講者数・修了者数

<応募者数・受講者数・修了者数>

	H30	R 1	R 2
応募者数	34 名	26 名	12 名
受講者数	33 名	25 名	12 名
修了者数	26 名	21 名	8 名

<受講者の年代・性別>

	H30		R 1		R 2	
	男	女	男	女	男	女
50 歳未満	1 名	0 名	1 名	1 名	0 名	0 名
50 歳代	20 名	4 名	15 名	4 名	3 名	2 名
60 歳代	5 名	2 名	2 名	1 名	5 名	1 名
70 歳以上	1 名	0 名	1 名	0 名	1 名	0 名

付 録



文部科学省 職業実践力育成プログラム (BP)

令和2年度 AIITシニアスタートアップ プログラム シラバス (授業概要)

基礎科目 (講義・演習型科目)
事例研究型科目
PBL型科目

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	必修	単位	—	時期	8月～1月
科目群	基礎科目	科目名	東京経済事情			教員名	板倉宏昭
		(英文表記)	Tokyo Economic Situation				

概要	活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く東京の経済事情を学ぶ。行政の政策やスタートアップ企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。			
目的・狙い	地域としての東京都が抱える課題とは何かを見出すことは、グローバル都市が抱える課題とは何かを理解することに通じる。各界マネジメントのパースペクティブから捉えられた現状から、受講生各人が起業を考えるに当たり、問題意識を明確化しどのような未来を描き、どのような課題を解決していきたいのかを考えるヒントを得ていくことを目的としている。			
前提知識 (履修条件)	組織におけるマネジメント経験があることが望ましい。			
到達目標	上位到達目標			
	自ら起業することを想定して各界のマネジメントのパースペクティブを獲得することで、新たな目で東京地域の現状から、課題を設定、その課題解決能力を獲得する。			
到達目標	最低到達目標			
	東京都の現状を多角的な視野で理解する。自ら起業することを想定して問題意識を高める。			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義（双方向）	○	講演者とのディスカッションを実施。
		実習・演習（個人）	—	
		実習・演習（グループ）	—	
	サテライト開講授業	—		
その他	—			
授業外の学習	各講義の前に分野についての予習を行う。また、興味を持った課題についてはインターネットや書籍などで自己学習を進めていく。			
授業の内容	各回、オムニバス方式にてゲスト講師を招聘して実施する。1回(90分)講義につき、ゲスト講義の後、クラスディスカッションを実施する。 ・担当講師との質疑応答の時間が有り、積極的な参加が望まれる。 * 講師（オムニバス）の詳細が決定次第、Webにて適宜お知らせします。 * 講義内容、日程は講師との調整により変更可能性がある。			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	講師：川田誠一氏 東京都立産業技術大学院大学 学長 講義内容：「技術倫理」 本講義では、技術倫理について学び、あらかじめ判断力を養うトレーニングすることを学びます。		
	第2回	講師：杉原章郎氏 株式会社ぐるなび代表取締役社長、本学運営諮問会議委員 講演内容：「日本の起業・創業の現状と求められる人材」 東京の起業創業の現状と課題と求められる人材について学びます。		
	第3回	講師：森 勝氏 東京都中小企業振興公社 事業戦略部創業支援課長 講演内容：「東京都における創業支援施策について」 日本の起業の現状と課題、東京都の起業に関する政策、東京都中小企業振興公社の支援事例について学びます。		
	第4回	講師：三尾 秀紀氏 株式会社三尾ハウジングコミュニティ 代表取締役 講義内容：「We have a “DREAM”」 起業への思いや独自性・市場性・将来性、仲間づくりからネットワークの構築と上げ方、経営理念（信念）について、具体例をあげながらお話しします。		
	第5回	講師：品川区地域振興部商業・ものづくり課 産業活性化担当 三宅 仁 氏 アイ・コンポロジー株式会社 代表取締役 山内 直樹 氏 株式会社テクノアクセルネットワークス 代表取締役社長 講義内容：「品川区の創業支援等事業・区内事業者の経営について」 品川区の創業支援等事業について説明するとともに、区内SHIP 品川産業支援交流施設に入居する事業者から自身の創業から現在の経営状況等についてお話しします。		

	第6回	講師：江中 忠久 氏 江中建設株式会社 代表取締役社長 講義内容：「長年続いた企業の歩みの中で」 講義内容：天保7年創業の江中建設がいかに伝統を受け継ぎいかに価値創造に取り組まれたかを学びます
	第7回	講師：伊関 洋介 氏 free株式会社 プロダクトマーケティングマネージャー 講義内容：「freeの創業ストーリー、顧客開発、成長を支えるミッション、カルチャー」 「スモールビジネスを主役に」をミッションと掲げ、いかにクラウド型バックオフィスサービスを創業、上場したかを学びます。
	第8回	講師：堀 貴史 氏 リーブ株式会社 代表取締役 講義内容：「AIIT修了生の起業・リーブ株式会社」 「教育に戦略を」インストラクショナルデザインの実現に向けたコンサルティングビジネスを展開している。AIITで得た知識をネットワークをいかに起業に活かしたかを学びます。
教科書・教材	必要に応じて各講師から提示する。	
参考図書	必要に応じて各講師から提示する。	
成績評価	担当教員からのレポート課題100%。 講師は最低到達目標を基準に合否によって実施する。	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選択	単位	—	学期	夏季
科目群	基礎科目	科目名 (英文表記)	経営戦略要論 Strategic Management		教員名	原田保	

概要	<p>起業や企業経営などに不可欠な戦略、とりわけ経営戦略について、実践的な視角からの講義が展開される。言い換えれば、本講義は実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するために、インタラクティブな場の構築が期待される。また、特に重視される戦略は、日本人が好むコンテンツ主義からの戦略デザインではなく、欧米人が得意とするコンテキストからの戦略デザインである。これによって、コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得ができるようになる。</p>			
目的・狙い	<p>たとえ規模が小さくても、グローバルに通用する組織の構築能力と、これらの組織へのマネジメント能力の獲得が指向される。つまり、何かを自らの手でつくりあげるビジネスなどではなく、例えばシステムやオペレーションへの科学的な実践行動によって現出されるプラットフォームに依拠したビジネスモデルの構築能力を保持している起業家や経営者の育成が指向される。併せて、ビジネスデザイン能力を保持するとともに、多様なコミュニケーション能力を保持する起業家や経営者の育成も試みられる。</p>			
前提知識 (履修条件)	<p>受講者としては、起業を指向する人やイノベティブなビジネスモデルの構築をコンテキストに依拠して展開する能力の獲得を指向する人が期待されている。</p>			
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>目指されるべきは、一人あるいはグループで起業が可能な能力の獲得、およびこれに有益なネットワーキングが可能になる能力の一定程度の獲得である。</p>			
	<p>最低到達目標</p> <p>受講者が高度プロフェSSIONALとして、いわば自由裁量型の働き手として社会に貢献できる人材を輩出する人材にふさわしい知見や行動力を習得することである。そのため、本講義では、起業に強く求められる有益な知見などを習得することのほか、コンテキストデザインを理解し、自分なりの言葉で提案、発表できること、それをレポートとして提出することを求める。</p>			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義(双方向)	○	
		実習・演習(個人)	○	
		実習・演習(グループ)	—	
	サテライト開講授業	—		
その他	—			
授業外の学習	<p>教科書を含め、関連する文献、資料を事前あるいは事後に読んでおくが良い。</p>			
授業の内容	<p>まずは講義テーマに依拠しながら、基礎的な能力の獲得を可能にする初歩的な知見の習得を可能にするための導入的な講義が行われる。その後、これを踏まえた受講者によるプレゼンテーションが行われることになり、これを踏まえたディスカッションが行われる。最終的には、自身の起業プランの開示をお願いすることになるが、これに対して受講生同士で有効な評価をすることも期待されている。また、これに関連する情報や考察についての討議も適宜に展開される。ここは、あくまでも個人ベースの能力の発揮が期待される場となる。</p>			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	<p>共通認識を獲得するために原田による導入講義が行われる。戦略論についての全般的な理解を深めることを目指す。とりわけ、コンテキストデザインの重要性が強調されることから、コンテキストデザイン手法をマスターすることが指向されることになる。</p>		
	第2回	<p>受講生による起業計画や経営戦略や経営管理に関する考え方などの披露と、これを踏まえたディスカッションが行われる。これらを通じて、どのようなケースにどのようなアプローチがフィットするのかを考えていく。</p>		

	第3回	コンテキストデザインの方法論を、事例を踏まえてマスターする。教科書の事例に関する戦略などの討議が、受講生の報告に基づいて行われる。なお、情報の共有化を図るために、受講生はプレゼン資料を配布することが義務付けられる（以下、同様である）。
	第4回	第3回と同様である。
	第5回	今後期待ができる都市型ビジネスを捉えたクリエイティブビジネスに関する戦略などの方向性や内容についての考察が行われる。特に、ここでは付加価値の創造を指向したビジネスモデルの独創性に関する考察が行われる。講義の形式は、第3回、第4回と同様である。
	第6回	第5回と同様である。
	第7回	現在の重点課題である少子高齢化、地方の過疎化を捉えた地域ビジネスに関わる戦略デザインに関する考察が行われる。ここでは、トポスデザインによる地域価値発現のための方法論の考察が行われる。講義の形式は、第3回、第4回と同様である（ここでは、報告は希望者のみである）。
	第8回	受講生による、自身のテーマに関する何らかの提言を簡単に報告する。同時に、1ページ1000文字、4ページ程度で、レポートの提出が期待される。なお、これも、情報の共有化のために、資料は全員に共有することが義務付けられる。
教科書・教材		① 原田保・三浦俊彦・高井透編著『コンテキストデザイン戦略』芙蓉書房出版。 ② 原田保編著『クリエイティブビジネス論』学文社。 ③ 原田保・山田啓一・石川和男編著『地域イノベーションのためのトポスデザイン』学文社。
参考図書		ポーター、並びにバーニーの戦略論。
成績評価		レポート及び発表100%。評価は最低到達目標を基準に合否にて実施する。

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選択	単位	—	時期	8月～9月
科目群	基礎科目	科目名	マーケティング要論			教員名	鈴木宏幸 城 裕昭
		(英文表記)	Marketing				

概要	<p>デジタル時代の本格到来やグローバル化の進展など著しい環境変化が進む今日、スタートアップにおいて、顧客創造や事業創造を成功に導くマーケティングは重要性が増している。本講義では、主にスタートアップに必要なマーケティングの視点・分析・検討留意点・策定等について、基本と本質を理解し、実際の課題解決に活用できる実践的な知識と習得を目指すものである。</p> <p>本講義では、マーケティングの本質的な意義や役割を修得するとともに、顧客視点に基づき、事業環境分析やマーケティング戦略をデザインすることを事例やミニケースも活用しながら学ぶ。加えて、今日多く耳にするデジタルマーケティングについて入門的な理解を図る。</p>		
目的・狙い	<p>スタートアップにおけるマーケティングの重要性や面白さを理解することで、視野を広げて且つ意味の深さを掘り下げる。課題解決に必要なマーケティングの基本的な概念を事例やミニケース討議を通じて学び、マーケティング思考力や課題解決力を練成して、実践的な知識やスキルを獲得することを旨とする。そのため、本講義では実践的なマーケティングの知識を教授するとともに、それらを効果的に活用できるようなスキルを身に付けることを目標とする。修得できる主な知識・スキルは次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタートアップに必要なマーケティングの構成論 2. スタートアップに求められるマーケティングの要素や検討項目 3. 仮説検証による事業創造/顧客開発の進め方 4. 身近な入門編としてのデジタルマーケティングの基礎 		
前提知識 (履修条件)	<p>世の中の最新動向を踏まえた社会や市場に関心興味があること。</p> <p>マーケティングについて、初歩的な知識を有していることが望ましい。</p> <p>マイクロソフトオフィスのExcel、Power Point（又は相当のソフトウェア）を使用できることが望ましい。</p>		
到達目標	<p>上位到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタートアップに求められるマーケティングの実践的な活動を行動に移すことが可能である。 2. 実際の事業環境分析やマーケティング戦略のデザイン活動を行動に移すことが可能である。 3. 仮説検証による事業創造/顧客開発を実際に進められるようなスキルを修得している。 		
	<p>最低到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタートアップに求められるマーケティングの重要要素を理解している。 2. 事業環境分析やマーケティング戦略のデザインの概要を理解できている。 3. 仮説検証による事業創造/顧客開発の重要ポイントや実際の進め方が理解できている。 		
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業	○	資料はmanabaに掲載され、録画講義をオンデマンドで視聴する。
	講義（双方向）	—	
	実習・演習（個人）	○	講師から提示された課題のレポートを作成、manabaより提出する。
	実習・演習（グループ）	○	ケースについて、manabaを活用して討議、成果物を纏める。
	サテライト開講授業	—	
	その他	—	グループ内ディスカッションは上記以外の方法の併用活用も可。その場合には、経過を随時manabaに記録すること。
授業外の学習	マーケティングの環境分析やリーンスタートアップ等の事前学習、次回テーマのポイント/キーワードの予習が課される。		
授業の内容	講義は配布資料を使用して行う。ケースの討議結果や演習結果は授業後に成果物を提出する。これらは、本学の授業支援システム(manaba)を活用する。		

授業の 計画	回数	内容
	第1回	「イントロダクション」 ・マーケティングの本質と役割 ・ケース理解と進め方
	第2回	「事業環境を認識する」 ・分析手法と基本フレームワーク 等
	第3回	「顧客を理解し認識する」 ・イノベーションとマーケティング 等
	第4回	「マーケティング戦略をデザインする」 ・コンセプトデザイン 等
	第5回	「リーンスタートアップと事業創造/顧客開発Ⅰ」 ・MVP (Minimum Viable Product) 等
	第6回	「リーンスタートアップと事業創造/顧客開発Ⅱ」 ・リーンキャンバス 等
	第7回	「デジタルマーケティングⅠ」 ・コンテンツマーケティング 等
	第8回	「デジタルマーケティングⅡ」 ・Webマーケティング 等 ・まとめ
成績評価	チーム貢献30%、レポート70%	
教科書・教材	サーバー(manaba)上に資料/コンテンツを掲載する。	
参考図書	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（2016）『マーケティング戦略 第5版（有斐閣アルマ）』有斐閣 井原久光（2014）『ケースで学ぶマーケティング[第2版]（MINERVA TEXT LIBRARY）』ミネルヴァ書房 田所 雅之（2017）『起業の科学 スタートアップサイエンス』日経BP社	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選択	単位	—	学期	夏季
科目群	基礎科目	科目名	ファイナンス要論			教員名	三好祐輔
		(英文表記)	Corporate Finance				

概要	<p>本講義の目標は、経営者の立場に必要なファイナンスの基礎を修得することである。企業が起業から事業成長する過程で、どのような資金調達手段があり、資金提供を受けるにはどのような要件を満たす必要があるかを学ぶ。本講義を通して、企業財務に関する実践的知識・スキルの取得と問題発見と解決・提案力を培えるように支援する。具体的には、財務分析の基礎的手法を学び、財務状況を把握できるようにする。そして、資金制約の中で企業価値最大化の目標を達成するために必要な方法を学ぶと共に外部からの資金調達に関わる基本的な関係について理解を深める。本講義では、ベンチャーキャピタル等のアントレプレナーに独特のファイナンスの理解に必要なものの考え方、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの領域において有用なものについて学ぶ。</p>			
目的・狙い	<p>企業価値経営に対するファイナンスの目的は、倒産しないこと、資金提供者の要求リターンを満たすことである。企業価値経営とは、企業が経済的付加価値を生み資金提供者をはじめとする企業の利害関係者の満足度を高めることである。どのような経営戦略が企業価値を高めることになるかを考察する。受講者は、企業の財務状態がどのように変化するかを分析し、次の経営戦略の策定が出来るようにする。同時に、資本市場において企業価値がどのように決まるかの基礎について理解を深める。そして企業価値を向上させることが出来ることを目指す。以上を踏まえ、本講義ではアントレプレナー・ファイナンスにおいても用いる論点を概観し、基礎的素養を習得することを目的とする。</p>			
前提知識 (履修条件)	<p>企業価値計算など実施に際して使用するエクセル表計算ができる。 経営戦略に関する知識が、あることが望ましい。</p>			
到達目標	<p>上位到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業価値経営をファイナンスの観点から説明できる。 ・企業価値経営に対するファイナンスが果たす役割を具体的に理解する。 ・企業価値経営や事業戦略の策定や実証分析を行うことができる。 			
	<p>最低到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイナンスへの関心を深める。 ・企業価値経営とファイナンスに関する基本的な概念を理解し、説明できる。 ・実証分析に関する方法を理解する。 			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義(双方向)	—	
		実習・演習(個人)	○	課題実習実施する
		実習・演習(グループ)	○	
	サテライト開講授業	—		
その他	○	授業へのPC持参		
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義資料をmanaba上で配布する。受講者は、講義を受ける前に事前に学習しておく。 ・復習：学んだ部分を中心に、自らが選定した企業について講義で扱った内容を反復する。 			
授業の内容	<p>企業の経営戦略や投資戦略において、リスクに見合ったリターンを獲得するためには、ファイナンスの知識の修得は不可欠である。この領域に関する知識がなければ、過度にリスク回避的になるか、あるいはリスクを負担し過ぎる行動に陥ることになる。本講義では、新規開業企業・ベンチャーが有するファイナンスに関する現代的意義と課題について考察する場を提供する。講義を通じ、具体的な事例を考察する能力や洞察を得るスキルを修得する。ただし、収録講義のためチーム構成は講義担当者が決める。受講者の理解度に応じ、講義の順番を変更する場合がある。</p>			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	ファイナンスとは？(WACC(加重平均資本コスト)と企業価値評価)(ビデオ受講)		
	第2回	ファイナンスで用いる会計の基礎(ビデオ受講)		
	第3回	最適資本構成について(ビデオ受講)		

	第4回	ファイナンスの基礎（イベントスタディ）（ビデオ受講）
	第5回	ファイナンスの基礎（ベータ値と未上場企業への応用）（ビデオ受講）
	第6回	トービンQに関する内容及び質問に対する回答(ビデオ受講)
	第7回	ポートフォリオ理論に関する内容及び質問に対する回答(ビデオ受講)
	第8回	割引キャッシュフロー法とは？アントレプレナー・ファイナンスでの企業価値評価 (IRR)とは？（ビデオ受講）
教科書・教材	なし。	
参考図書	仁科一彦(2004)『現代ファイナンス理論入門』（中央経済社） 板倉宏昭(2017)『新訂 経営学講義』（勁草書房）	
成績評価	最終試験 20%、積極的な授業参加（出席したことのみでは評価しない）20%、レポート 60%。評価は最低到達目標を基準に合否にて実施する。	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選択	単位	—	時期	8~9月
科目群	基礎科目	科目名	ITイノベーション要論		教員名	三宅由美子 戸沢義夫	
		(英文表記)	IT Innovation				

概要	<p>現在の情報社会では、各種の業務で情報システムを活用することが増加している。従来の情報システムの役割はデータ管理と定型業務の自動化による効率化が主であった。しかし、今後はデータ取り込みと情報共有手段としての役割がさらに重要になってくる。最近では情報システムの専門家でなくても、業務に精通していれば、容易にクラウドを活用してシステム開発できるようになった。サイボウズ社のクラウドを活用した Kintone である。日本発のソフトウェアがグローバル展開し海外で使われている例はほとんどないが、Kintone は例外的に海外（主に米国西海岸）で利用され始めている。プログラミング経験が無くても容易に情報システムを構築できることを実際に体験する。</p> <p>身近なテーマを選んで Kintone による情報システム構築を行う以外に、Kintoneに関わる技術としてクラウド・コンピューティングとAI (Artificial Intelligence) について解説する。</p>			
目的・狙い	<p>日本発のソフトウェア Kintone を理解する。Kintone による情報システムの構築を4名程度のグループで実際に行い、Kintone が提供する開発方法を体験する。</p> <p>クラウド・コンピューティングの仕組みと利点について理解する。</p> <p>AIについて、今までと現在、未来について正しい判断ができるようになる。</p>			
前提知識 (履修条件)	<p>プログラミング経験は不要だが、キーボード操作できる必要がある。</p> <p>ExcelやWordの経験があるのが望ましい。</p> <p>講義の際に各自（インターネットに接続できる）パソコンを持参すること。</p>			
到達目標	上位到達目標			
	Kintone を使いこなし、自力で業務に活用できるシステムを構築できるレベル			
	最低到達目標			
	Kintone がどのようなものかを理解できるレベル			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義（双方向）	○	
		実習・演習（個人）		
		実習・演習（グループ）	○	実際の演習・操作で理解度を高める。
	サテライト開講授業	—		
その他	—			
授業外の学習	<p>講義時間以外に Kintoneを操作してみる</p> <p>グループ作業が多いので、グループウェアを活用したチームディスカッションを推奨する</p>			
授業の内容	<p>1チームは4名程度とし、複数のチームを作る。</p> <p>チームごとに Kintoneで構築するシステムのテーマを自分たちで決定する。</p> <p>チームメンバーは分担して自分が担当する役割を決定する。</p> <p>最期に、チームごとにどのようなシステムを構築したかをデモしながら全員に説明する。</p> <p>講義は適宜行う。</p> <p>レポートは課さない。</p>			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	第1日 秋葉原キャンパス（13:30~16:45）		
		講義1（Kintoneの基本機能） 個人到達目標の設定、パソコン環境設定（ネットワーク、Kintone）、チーム分け		
第2回	科目の目的、学習の進め方、チーム目標の設定 Kintone によるシステム構築			

	第3回	第2日 秋葉原キャンパス (13:30~16:45) 講義2 (クラウド・コンピューティング) Kintone によるシステム構築
	第4回	Kintone によるシステム構築
	第5回	第3日 秋葉原キャンパス (13:30~16:45) Kintone によるシステム構築
	第6回	Kintone によるシステム構築
	第7回	第4日 秋葉原キャンパス (13:30~16:45) 各チームによるデモと説明
	第8回	講義3 (AI:人工知能) Wrap up
教科書・教材	資料は適宜配布する。	
参考図書	講義時に適宜指示する。	
成績評価	<p>第7回のデモ・説明をチームごとに評価。</p> <p>チーム内での貢献が顕著と判断できる場合、ほとんどチームへの貢献が認められない人はチーム成績に加えて個人貢献分を考慮して個人評価とする。講義の理解度は評価しない。</p> <p>評価は最低到達目標を基準に合否にて実施する。但し、出席回数3日以上</p>	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選択 必修	単位	—	時期	10月
科目群	事例研究型科目	科目名	事業デザイン要論			教員名	戸沢義夫/亀井省吾
		(英文表記)	Business Design				

概要	既存の事業開発・事業改革の事例(ケース)を研究する。事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを擬似経験する。ビジネス環境の変化はどうか、ステークホルダーは誰か、ビジネスモデルはどうなっているか、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らして、どのような課題があるかを明確にする。与えられた事例に対して、チームで検討し、結果をプレゼンテーションする。初回にチーム分けをするので受講者は必ず参加すること。			
目的・狙い	3~4名のチームで与えられた事例(ケース)を多角的に検討する。ケースに書かれた内容を前提とするが、不足している情報はチームで独自に収集する。仮説・検証の考え方が求められる。自分の考え方や他メンバーとの考え方に違いがあった場合に、なぜ自分は他メンバーと違う発想をしたかについて自省することが教育の基本になる。他メンバーがどのように考えているかを聞き出すケーパビリティが重要である。チームとしてひとつの結論に至る必要があるが、チームメンバー全員がその結論に至った理由を同じように説明できることが求められる。良いチーム成果を出すことだけが教育目的ではない。チームメンバー全員が誰でもチーム成果を説明でき、質問に答えられることが要請される。複数のチームが同じケースに対して異なった結論を出している場合は、その違いが生じた理由についてクラス全体で議論する。チームが検討した内容で触れるべきなのに触れていないことがらについて教員が指摘し、なぜ検討しなかったのかをクラス全体で議論する。チームとして与えられたケースでの事業(仕事)のやり方を分析し、良い部分と課題を他人にわかるように整理する。オーディエンスを対象に、誰でもわかることを目的としたプレゼンテーションを実施する。分析結果の論理的説明と納得性が極めて重要である。			
前提知識 (履修条件)	企業での仕事の経験、ビジネス経験があるのが望ましい。			
到達目標	上位到達目標			
	ビジネスを分析し、ビジネスモデル、ビジネスオペレーション、ビジネス環境、制約やコンテキスト、組織構造、ポジショニング、ステークホルダー、ビジネス戦略、ビジネス価値、ビジネス課題などを、他人にわかるように独力でまとめ提示できる。			
到達目標	最低到達目標			
	ビジネスを分析するタスクのチームメンバーとして、チームに貢献できる。			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義(双方向)	○	
		実習・演習(個人)	—	
	実習・演習(グループ)	○	与えられたケースをチームで集中的に取り組む。ケースについて、1.ケース配布、2.講義・チーム議論、3.成果発表とクラス議論から成る。1と2、2と3は十分な間隔を置き、チームコミュニケーションを行えるようにする。	
サテライト開講授業	—			
その他	—			
授業外の学習	与えられたケースについて、情報収集・分析、プレゼンテーションの準備など、チーム活動を行う上で必要な事前に行うべき個人活動を行う。ケースについて8時間以上の授業外活動が必要である。			
授業の内容	1.ケース配布・キックオフ・講義(1コマ) 土曜 6限 2.講義・チーム議論(6コマ) 休日 3~5限 3.成果発表とクラス議論(1コマ) 土曜 6限			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	講義・キックオフ・チーム分け ケース配布 土曜 6限		
	第2回	講義		
	第3回	チーム議論		

	第 4 回	チーム議論
	第 5 回	講義
	第 6 回	チーム議論
	第 7 回	チーム議論
	第 8 回	成果発表とクラス議論
教科書・教材	教科書は特に指定しない。 ケースは配布する。	
参考図書	必要に応じて指示する。	
成績評価	ケースのチーム発表(チームとして評価するが、個人の役割・貢献を加味することがある)(60%)、個人活動内容(25%)、クラス議論での参画度合(15%)。 評価は最低到達目標を基準に合否にて実施する。但し、出席回数5回以上(第1回と第8回は出席必須)の者のみ評価する。	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選抜 必修	単位	—	時期	12月～2月
科目群	PBL	科目名	シニアスタートアップ特論			教員名	板倉宏昭/戸沢義夫
		(英文表記)	Project Based Learning				

概要	<p>基礎科目では、知識とスキルを修得するが、これだけでは事業を開発し起業するには不十分である。実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)が不可欠である。当科目では、スタートアッププログラムの最終段階として、社会の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL(Project Based Learning)型の演習授業を行う。</p>
目的・狙い	<p>当科目の履修段階では、以下の知識・スキル・経験等を有していることが想定・期待される。</p> <p>(1)本プログラム受講前から既に有している知識・スキル・経験</p> <p>(2)講義・演習型の基礎科目で修得した知識・スキルと対象領域の現状・課題等</p> <p>(3)事例研究型科目で学んだ事業開発手法</p> <p>これらの知識・スキル・経験等を活用・駆使して、PBL型のプロジェクト演習を行うことで、起業型の高度人材に期待される経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)を獲得する。</p>
前提知識 (履修条件)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎科目2科目(必修除)を修了していること。 事例研究型授業(事業デザイン要論)を修了していること。 11月に実施するPBLオリエンテーションに出席すること PBLキャンプ(11/21～23実施予定)に参加していることが望ましい。
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を牽引することができ、また関係者を指導することができるレベル。</p>
	<p>最低到達目標</p> <p>問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を適切に実行できるレベル。</p>
授業外の学習	<p>授業活動に必要とされる事前学修、またメンバーに分担された活動中の課題作業(調査、プログラミング、ドキュメント作成等)を行う。</p>
授業の内容	<p>原則として、8週間以上の活動を計画的に行う。また、月1回以上のコアミーティング(教員報告)、週1回の週報(週間活動報告)提出を適切に行うこと。尚、中間時には起業家等によるレビューを実施し、最終成果につき、発表会にてのプレゼンテーションを実施する。</p>
成績評価	<p>チームでのコアミーティング報告(チームとして評価するが、個人の役割・貢献を加味することがある)(50%)、最終成果発表(50%)。評価は可否にて実施する。</p>

令和2（2020）年度



文部科学省 職業実践力育成プログラム(BP)

AIIT シニアスタートアップ プログラム

基礎科目（講義・演習型科目）

受講者募集要項

出願受付	令和2年5月30日(土)から7月14日(火)必着まで
選考手数料納期	令和2年5月30日(土)から7月13日(月)23時まで
選考結果	令和2年7月22日(水)郵送(予定)
プログラム開講	令和2年8月9日(日)から

目 次

1	AiIT シニアスタートアッププログラムの概要	1
2	出願資格	2
3	募集人員（各選択科目）	2
4	受講期間	2
5	講義時間について	3
6	選考手数料及び納入方法	3
7	受講料	3
8	出願書類について	4
9	選考（基礎科目受講）	4
10	出願書類の提出	5
11	合否通知	5
12	修了要件（履修証明書交付要件）	5
13	教育訓練給付制度	5
14	個人情報の取り扱い	6
15	受講にあたり必要な準備について	6
16	問い合わせ先	6
	開設科目一覧・日程予定表	7
	支払手順	8 - 9
	本学（品川シーサイドキャンパス）及び秋葉原サテライトキャンパス周辺図	10
	（別添）	
	様式1：「出願資格審査申請書」	11
	様式2：「受講願書」	12
	様式3：「科目受講申請書」	13
	本学への交通アクセス・周辺図	14

●文部科学省 職業実践力育成プログラム（BP）制度について

教育再生実行会議『「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について（第六次提言）』（平成27年3月）を受けて、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定することとしました。

これにより、厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携し、社会人の学び直しを推進します。

1 AIIT シニアスタートアッププログラムの概要

本プログラムは、起業を目指すシニアの方が起業に必要な知識及びスキルを短期間で修得できるよう、大学院教育（修士課程）レベルでの学び直しを推進するものです。

本プログラムの実施にあたって、東京都立産業技術大学院大学（AIIT）は、東京都、公益財団法人東京都中小企業振興公社の後援及び産業界等の協力を得ています。

本学では、本プログラムにおいて以下の3つのユニットを開講します。それぞれのユニットは関連しており、全てのユニットに合格し、修了判定を経ると学校教育法（法第105条等）に基づく「履修証明書」を交付いたします。

基礎科目（講義・演習型科目）では、シニアの起業に必要とされる知識及びスキルの修得・定着を目指します。必修科目1科目と選択科目4科目のうち2科目以上を選択、受講してください。受講方法はビデオ受講及びWeb配信による授業となりますので、受講開始日までにパソコンのご用意及びご自宅の通信環境を整えていただく必要があります。

事例研究型科目「事業デザイン要論」では、シニアの起業に必要とされる事業開発手法の修得を目指します。基礎科目（講義・演習型科目）の必修科目「東京経済事情」1科目を受講し、選択科目2科目における合格が受講条件となります。

PBL型科目「シニアスタートアップ特論」は、現実の課題に対してグループで取り組み、具体的な作業を行いながら解決に導くことで経験や業務遂行能力を高めていくものです。事例研究型科目「事業デザイン要論」における合格が受講条件となります。

※この募集要項は「基礎科目（講義・演習型科目）」の要項であり、「事例研究型科目」、「PBL型科目」は、対象者に改めて配布します。

(1コマ90分)

ユニット名	区分	科目名	コマ数	時間	開講期間
基礎科目 (講義・演習型科目)	【必修科目】	東京経済事情	8コマ	12時間	令和2年8月11日から 同年9月27日まで (「東京経済事情」は、 令和3年2月までを予定)
	【選択科目】	経営戦略要論	8コマ	12時間	
	【選択科目】	マーケティング要論	8コマ	12時間	
	【選択科目】	ファイナンス要論	8コマ	12時間	
	【選択科目】	ITイノベーション要論	8コマ	12時間	



基礎科目の必修科目1科目を受講し、選択科目2科目における合格判定を受けた者から選考

ユニット名	区分	科目名	コマ数	時間	開講期間
事例研究型科目	【必修科目】	事業デザイン要論	8コマ	12時間	令和2年10月10日から 同月31日まで



事例研究型科目「事業デザイン要論」における合格判定を受けた者から選考

ユニット名	区分	科目名	コマ数	時間	開講期間
PBL型科目	【必修科目】	シニアスタートアップ特論	8コマ (+補講)	12時間	令和2年12月6日から 令和3年2月21日まで ※令和3年2月下旬に 成果発表会を予定

カリキュラム概要

7月	8~9月	10~11月	12~2月	2月(予定)
書類 選考	5科目(各8回) 基礎科目	1科目(8回) 事例研究型科目	1科目(8回+補講) PBL型科目	PBL 成果発表
選考	知識・スキル (講義・演習型科目)	選考	選考	発表会
		事業開発手法 (事業デザイン要論)	選考	修了
			業務遂行能力・経験 (シニアスタートアップ特論)	

8~9月 基礎科目（講義・演習型科目） 1科目必修及び2科目以上選択（各科目20名程度）

☆シニア起業に必要とされる知識・スキルの修得・定着
※必修科目のみ8月から翌年2月まで開講予定（全8回）

10~11月 事例研究型科目 1科目（20名程度）

☆シニア起業に必要とされる事業開発手法の修得

11月(中旬) キャンプ形式のアイデアソン（別途ご案内）

12~2月 PBL型科目 1科目（20名程度）

☆課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトの実行

2 出願資格

次の要件（年齢及び学歴等）に該当する者

年齢要件（※1）	学歴等要件（※2）
<p>令和3（2021）年3月31日現在、50歳以上の者（昭和46（1971）年4月1日以前に生まれた者）</p>	<p>次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1) 日本の大学を卒業した者</p> <p>(2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者〔大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者〕</p> <p>(3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>(5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育制度における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者</p> <p>(6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者</p> <p>(7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）</p> <p>(8) その他本学において、個別の資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者</p>

（※1）令和3（2021）年3月31日現在で50歳未満の方は、事前にご相談ください。ご年齢と出願状況等により、出願を認めることがあります。

（※2）学歴等要件（3）、（4）、（5）、（8）に該当して出願しようとする方については、出願資格の事前審査を行います。事前審査を通過後、本プログラムに出願することができます。なお、事前審査申請時には選考手数料は不要です。お間違いのないようご注意ください。（詳細は4ページ参照）

3 募集人員（各選択科目）

20名程度

※基礎科目は、必修科目に加えて、選択科目を最低2科目受講する必要があります。

※3科目以上の受講を希望する方は、出願時に申請書（13ページ）にチェックをして下さい。3科目以上の受講は、定員の状況により3科目、4科目の受講が認められます。

なお、受講が認められた後は、科目を辞退することはできません。

4 受講期間

基礎科目（講義・演習型科目）の予定は以下のとおりです。

オリエンテーション	令和2年8月9日（日）13時から16時まで（予定）必修
基礎科目（講義・演習型科目）	令和2年8月11日（火）から同年9月27日（日）まで （東京経済事情は令和3年2月までを予定）

※受講する選択科目によって講義の開始日・終了日が異なります。（詳細は7ページ参照）

5 講義時間について

【講義時間】

- (1) ITイノベーション要論は各回日曜日13時30分から16時45分まで
- (2) 経営戦略要論、マーケティング要論、ファイナンス要論は8月11日（火）から9月27日（日）まで
- (3) 東京経済事情は各回水曜日19時から20時30分まで（未定の回は決定後、通知）

【受講方法】

- (1) ITイノベーション要論はWeb配信
- (2) 経営戦略要論、東京経済事情はビデオ受講又はWeb配信
- (3) マーケティング要論、ファイナンス要論はビデオ受講

※受講開始日までにパソコンのご用意及びご自宅の通信環境を整えていただく必要があります。

※科目によって受講時間・方法が異なりますので、詳細は7ページ及びシラバスをご確認ください。

6 選考手数料及び納入方法

【選考手数料】

10,000円

※基礎科目（講義・演習型科目）の出願・選考時のみ選考手数料が必要となります。

【納入方法】

コンビニエンスストア及びクレジットカード等での支払い

※選考手数料は、以下（1）または（2）のいずれかの方法で期限内にお支払いください。支払い最終日は、令和2年7月13日（月）23時までとなります。（詳細は8～9ページ参照）

一旦納入された選考手数料は理由の如何にかかわらず返還いたしませんので、予めご了承ください。

また、お支払いで生じる事務手数料は出願者の負担となります。

（1）コンビニエンスストアで支払った場合

- ①レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書」を受け取ってください。
- ②「入学検定料・選考料取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、受講願書（様式2）の所定箇所に貼付して、出願書類と一緒に発送してください。

（2）クレジットカードで支払った場合（その他のペイジー対応 ATM 等もあり）

- ①支払い後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスしてください。
- ②受付完了時に通知された〔受付番号〕と〔生年月日〕を入力して【収納証明書】を印刷してください。
- ③印刷した【収納証明書】を出願書類と一緒に発送してください。

※スマートフォン等でお申込みされた方は、プリンタのある環境でご利用ください。

7 受講料

選択科目（基礎科目）の受講数等によって、受講料が異なります。

<table border="1"><tr><th colspan="2">基礎科目</th></tr><tr><td>3科目</td><td>60,000円</td></tr><tr><td>4科目</td><td>80,000円</td></tr><tr><td>5科目</td><td>100,000円</td></tr></table>	基礎科目		3科目	60,000円	4科目	80,000円	5科目	100,000円	+	<table border="1"><tr><td>事例研究型科目</td></tr><tr><td>20,000円</td></tr></table>	事例研究型科目	20,000円	+	<table border="1"><tr><td>PBL型科目</td></tr><tr><td>20,000円</td></tr></table>	PBL型科目	20,000円	=	<table border="1"><tr><th>合計</th></tr><tr><td>100,000円</td></tr><tr><td>120,000円</td></tr><tr><td>140,000円</td></tr></table>	合計	100,000円	120,000円	140,000円
基礎科目																						
3科目	60,000円																					
4科目	80,000円																					
5科目	100,000円																					
事例研究型科目																						
20,000円																						
PBL型科目																						
20,000円																						
合計																						
100,000円																						
120,000円																						
140,000円																						

※基礎科目は必修科目の東京経済事情と選択科目2科目、合計3科目以上の受講が必須となります。

※その他、年度内に実施を予定しているPBLキャンプに参加する場合（任意）も別途参加費（実費相当）がかかります。

8 出願書類について

I. 事前審査対象の方

「2 出願資格」の(3)、(4)、(5)、(8)の出願資格により出願しようとする方は、以下のとおり出願資格の事前審査を行いますので、提出期間内に以下の必要書類を提出してください。

※事前審査を通過後、Ⅱにしたがい、本プログラムに出願することができます。なお、事前審査申請時には、選考手数料のお支払いは不要です。

事前審査申請期間	令和2年5月30日(土)から同年6月26日(金) 必着
事前審査の結果通知	令和2年6月30日(火) 発送予定
事前審査を通過した方	事前審査を通過した方はⅡの出願受付期間内に書類を提出

出願資格	[事前審査申請] 必要書類
(3)、(4)、(5)の者	①出願資格審査申請書(様式1) 11ページ参照 ②出身大学の卒業証明書又は卒業証書 (日本語又は英語訳添付)(発行日不問、コピー可) ※注意: 事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。
(8)の者	①出願資格審査申請書(様式1) 11ページ参照 ②最終学歴出身学校の卒業証明書又は卒業証書 (日本語又は英語訳添付)(発行日不問、コピー可) ③業務従事歴や研究従事歴等を記した書類(様式任意) ④上記業務従事歴等を証明する書類 ※注意: 事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。

Ⅱ. 事前審査対象外の方 (Iでの事前審査を通過した方も含む)

「2 出願資格」の(1)、(2)、(6)、(7)の出願資格により出願しようとする方は、以下の期間に出願書類を提出期間内に必要書類を提出してください。

なお、選考手数料の支払い最終日は、令和2年7月13日(月)23時00分までとなります。ご注意ください。

出願書類提出期間	令和2年5月30日(土)から同年7月14日(火) 必着又は受付窓口持参可(17時まで)
----------	--

出願資格	[出願] 必要書類
(1)、(2)、(6)、(7)の者 (事前審査を通過した方及びIで事前審査を通過した方は①～③のみ)	①受講願書(様式2) 12ページ参照 ②「収納証明書を出願書類の所定台紙に貼付」もしくは「印刷した【収納証明書】を出願書類に同封」 8～9ページ参照 ③科目受講申請書(様式3) 13ページ参照 ④出身大学の卒業証明書又は大学改革支援・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書(発行日不問、コピー可)

9 選考(基礎科目受講)

選考内容: 小論文を提出(予め定められたテーマによる論文選考)

- ・文字数は1,000字以上2,000字以内(使用言語は主に日本語)
- ・テーマは、本学ホームページに掲載(令和2年5月30日(土)14時頃公開予定)
- ・出願書類と一緒に提出

HPアドレス: https://aiit.ac.jp/master_program/certification_program/senior_startup/



10 出願書類の提出

出願に必要な書類、小論文を一括して発送又は受付窓口を持参してください。

【出願書類（Ⅰ・Ⅱ共通）】

(1) 郵便等による発送

※書留、ゆうパック及びレターパックなど発送から配達まで送達過程の記録が残る形で発送してください。

※普通郵便で発送した場合の郵便事故については本学で責任を負いません。

(2) 本学（品川キャンパス）の受付窓口を持参

※受付時間は、平日の9時から17時まで（12時30分から13時30分まで除く）

【その他】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、原則郵送をお願いします。

原則として、提出された出願書類は返却いたしません。

11 合否通知

令和2年7月22日（水） 郵送予定

※令和2年7月27日（月）までに通知が届かない場合は、必ず本学までお問い合わせください。

12 修了要件（履修証明書交付要件）

各科目の修了認定については、本学ホームページに掲載するシラバスの評価に基づき評価を行います。

また、本プログラムにおける履修証明書交付要件は、「基礎科目（講義・演習型科目）」、「事例研究型科目」、「PBL型科目」の3つのユニットの全ての必修科目に合格し、かつ、「基礎科目（講義・演習型科目）」の選択科目2科目に合格することです（合計60時間以上を修了）。履修証明書の交付要件を満たした方は、修了判定を経て学校教育法に基づく履修証明書が交付されます。

【掲載ページ】

https://aiit.ac.jp/master_program/certification_program/senior_startup/



13 教育訓練給付制度

本プログラムは教育訓練給付金（厚生労働大臣指定一般教育訓練講座）の支給対象となっています。支給対象者の条件や申請方法等については、「一般教育訓練の教育訓練給付金の支給申請手続きについて（ハローワーク）」をご確認ください。ご自身が支給対象となるか確認するため、ハローワークに支給要件照会をすることができます。

一般教育訓練給付金	雇用保険の加入期間など一定の条件を満たした方が指定講座を修了された場合に、受講者本人が指定教育訓練実施者に対して支払った教育訓練経費（入学金・授業料）の20%（上限10万円）が支給される制度です。
-----------	--

【教育訓練給付制度（厚生労働省HP）】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html



【一般教育訓練の教育訓練給付金の支給申請手続きについて】

<https://www.mhlw.go.jp/content/000588319.pdf>



14 個人情報の取り扱い

出願にあたり提出された個人情報は、出願手続き、小論文、合否発表、受講手続きなど、本プログラムの運営に関する目的以外には一切使用いたしません。

15 受講にあたり必要な準備について

本プログラムを受講するにあたり、ビデオ受講及びWeb配信による授業がありますので、以下環境を整えていただく必要があります。

- (1) パソコン (Google Chromeのインストール可能、Webカメラ付等)
- (2) 通信環境 (通信容量無制限の回線を推奨)

16 問い合わせ先

本プログラムに関するお問い合わせ先及び出願書類・小論文等の宛先は以下のとおりです。

※原則として、問い合わせ時間は平日の9時から17時まで (12時30分から13時30分まで除く)

東京都公立大学法人

東京都立産業技術大学院大学OPI企画運営係

AIITシニアスタートアッププログラム担当

〒140-0011 東京都品川区東大井一丁目10番40号

TEL : 03-3472-7833 (受付時間 9時から17時まで (平日のみ))

E-Mail : senior-startup@aiit.ac.jp

U R L : https://aiit.ac.jp/master_program/

[certification_program/senior_startup/](https://aiit.ac.jp/master_program/certification_program/senior_startup/)



■開設科目一覧・日程予定表

(1コマ90分)

ユニット名	区分	科目名	時間数	コマ数	回	開講予定日	曜日	時限	時間
オリエンテーション	必修	オリエンテーション (通学(予定))	3時間	-	1	8月9日	日	-	13時00分～16時00分
基礎科目 (講義・演習型科目)	必修	東京経済事情	12時間	8コマ	1	8月12日	水	ビデオ受講及びWeb配信	19時00分～20時30分
					2	9月9日	水	ビデオ受講及びWeb配信	19時00分～20時30分
					3	9月30日	水	ビデオ受講及びWeb配信	19時00分～20時30分
					4	未定	水	ビデオ受講及びWeb配信	19時00分～20時30分
					5	未定	水	ビデオ受講及びWeb配信	19時00分～20時30分
					6	未定	水	ビデオ受講及びWeb配信	19時00分～20時30分
					7	未定	水	ビデオ受講及びWeb配信	19時00分～20時30分
					8	未定	水	ビデオ受講及びWeb配信	19時00分～20時30分
	選択	経営戦略要論	12時間	8コマ	1	8月11日	火	ビデオ受講及びWeb配信	未定
					2	8月18日	火	ビデオ受講及びWeb配信	未定
					3	9月1日	火	ビデオ受講及びWeb配信	未定
					4	9月15日	火	ビデオ受講及びWeb配信	未定
	選択	マーケティング要論	12時間	8コマ	1	8月23日	日	ビデオ受講	-
					2	9月6日	日	ビデオ受講	-
					3	9月20日	日	ビデオ受講	-
					4	9月27日	日	ビデオ受講	-
	選択	ファイナンス要論	12時間	8コマ	1	8月30日	日	ビデオ受講	-
					2	9月6日	日	ビデオ受講	-
					3	9月13日	日	ビデオ受講	-
					4	9月20日	日	ビデオ受講	-
選択	ITイノベーション要論	12時間	8コマ	1	8月23日	日	Web配信	13時30分～16時45分	
				2	8月30日	日	Web配信	13時30分～16時45分	
				3	9月13日	日	Web配信	13時30分～16時45分	
				4	9月27日	日	Web配信	13時30分～16時45分	
事例研究型科目	必修	事業デザイン要論 (通学(予定))	12時間	8コマ	1	10月10日	土	6・7時限	18時30分～21時40分
					2	10月18日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
					3	10月25日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
					4	10月31日	土	6・7時限	18時30分～21時40分
PBLオリエンテーション	-	PBLオリエンテーション (通学(予定))	-	-		11月7日	土	6・7時限	18時30分～21時40分
PBLキャンプ	-	PBLキャンプ・アイデアソン (八丈島(予定))	2泊3日	1	11月21日	土	-	-	
				2	11月22日	日	-	-	
				3	11月23日	月・祝	-	-	
PBL型科目	必修	シニアスタートアップ特論 ※12月20日のみ 秋葉原サテライトキャンパス (通学(予定))	12時間	8コマ	1	12月6日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
					2	12月20日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
					3	1月10日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
					4	1月24日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
				補講	5	2月7日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
					6	2月21日	日	3・4時限	13時00分～16時15分

時限	授業時間
3限	13時00分～14時30分
4限	14時45分～16時15分
5限	16時30分～18時00分
6限	18時30分～20時00分
7限	20時10分～21時40分

※東京経済事情 19時00分～20時30分
 ※ITイノベーション要論 13時30分～16時45分

※開講予定は実施方法も含め変更することがありますので、最新情報は必ず本学ホームページをご確認ください。
 ※経営戦略要論のWeb配信の時間は決定後、通知します。
 ※「東京経済事情」の開講予定日が「未定」となっている回については、決定後、通知します。(開講期間8月から翌年2月まで)
 ※各科目の授業概要及び講師は、本学ホームページに掲載するシラバスをご確認ください。

[掲載ページ]

https://aiit.ac.jp/master_program/certification_program/senior_startup/



東京都立産業技術大学院大学(AIITシニアス

1 Webで事前申込み

画面の指示に従って必要事項を入力し、お支払いに必要な番号を取得。



<https://e-shiharai.net/>

本学HP
からも
アクセス
できます！

学校一覧から、**東京都立産業技術大学院大学(AIITシニアスタートアッププログラム)** を選択してください。

2 お支払い

セブン-イレブン

【払込票番号:13ケタ】

●レジにて「インターネット支払い」と店員に伝え、印刷した【払込票】を渡すか、【払込票番号】を伝えてお支払いください。

マルチコピー機は使用しません

ローソン・ミニストップ

【お客様番号:11ケタ】 【確認番号:4ケタ】

Loppi へ
↓
各種サービスメニュー
↓
各種代金・インターネット受付
↓
各種代金お支払い
↓
マルチペイメントサービス
↓
【お客様番号】【確認番号】入力

ファミリーマート

【お客様番号:11ケタ】 【確認番号:4ケタ】

Fami ポート へ
↓
代金支払い
↓
各種代金お支払い
↓
番号入力画面に進む
↓
【お客様番号】【確認番号】入力

レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書」を受け取ってください。

デイリーヤマザキ

【オンライン決済番号:11ケタ】

レジにて「オンライン決済」と店員に言い、【オンライン決済番号】をお伝えください。

セイコーマート

【オンライン決済番号:11ケタ】

クラブステーション へ
↓
「インターネット受付 各種代金お支払い」
↓
【オンライン決済番号】を入力

ペイジー対応ネットバンク

ゆうちょ、みずほ、三井住友、りそな銀行他

ネットバンキングにログインし、「税金・各種料金の払込(ペイジー)」をクリック
↓
収納機関番号に【58021】と入力
↓
【お客様番号】【確認番号】を入力
↓
画面上で金額を確認し、料金をお支払い(口座引落扱い)

ペイジー対応ATM

ゆうちょ、みずほ、三井住友、りそな銀行他

「税金・各種料金(ペイジー)」を選択
↓
収納機関番号に【58021】と入力
↓
【お客様番号】【確認番号】を入力
↓
支払方法を選択(現金またはキャッシュカード)し、料金をお支払い

ネット専門銀行

楽天、じぶん、ジャパンネット銀行他

お申し込み確定画面から「ネットバンクでの支払い」をクリック
↓
支払う銀行を選択して、インターネットバンキングにログイン
※一度、ブラウザを閉じてしまった場合は、E支払いサイトの「申込内容照会」からログインしてください。その際には、11ケタのお客様番号が必要です。
↓
払込内容を確認し、料金をお支払い(口座引落扱い)



※お支払いされるカードの名義人は、出願者本人でなくても構いません。但し、「基本情報入力」画面では、必ず出願者本人の情報を入力してください。

Web申込みの際に、支払いに利用するカードを選択
↓
画面の指示に従い、支払手続を行ってください。

支払い完了後、E支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された[受付番号]と[生年月日]を入力して【収納証明書】を印刷してください。

※スマートフォン等でお申込みされた方は、プリンタのある環境でご利用ください。

スタートアッププログラム) 選考手数料払込方法

※番号取得後に入力ミスに気づいた場合はその番号では支払いを行わず、もう一度入力し直して、新たな番号を取得してお支払いください。支払い期限内に代金を支払わなかった入力情報は、自動的にキャンセルされます。

※カード決済完了後の修正・取消はできません。申込みを確定する前に内容をよくご確認ください。

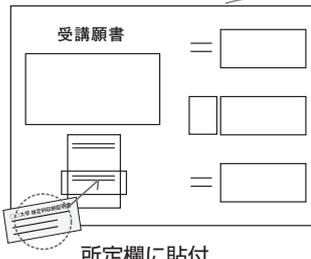
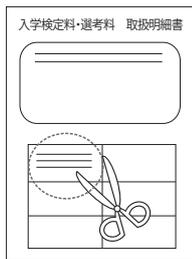
※確定画面に表示される番号をメモしてください。



3 出 願

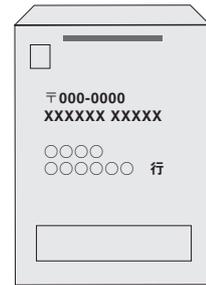
「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、受講願書の所定欄に貼る。

「収納証明書」部分を切り取る

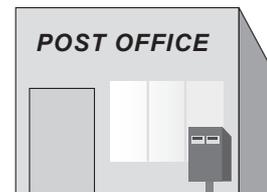


所定欄に貼付

必要書類



郵送にて出願



⚠ 注意事項

- 出願期間を募集要項等でご確認のうえ、締切に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- 支払最終日の「Webサイトでの申込み」は23:00までとなります。
- 「選考手数料払込」についてのお問い合わせは、コンビニ店頭ではお答えできません。詳しくはWebサイトをご確認ください。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。
- 一度お支払いされた選考手数料は返金できません。
- セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート以外でお支払いの方は、支払完了後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、【収納証明書】を印刷して出願書類に貼付してください。
- 「申込内容照会」で収納証明書が印刷できるのは、セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート以外でお支払いされた場合に限りです。
- 選考手数料の他に事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトをご確認ください。
- 取扱いコンビニ、支払方法は変更になる場合があります。変更された場合は、Webサイトにてご案内いたします。

事前審査対象の方のみ提出

No.

※この欄は記入不要です。

東京都立産業技術大学院大学 令和2(2020)年度 AIIT シニアスタートアッププログラム
出願資格審査申請書

区分	姓	Middle	名	生年月日	年	月	日
フリガナ				年齢	歳 (令和3年3月31日現在)		
氏名				性別	男 ・ 女		
アルファベット				国籍			
現住所	〒 —			電話 ()			
	メールアドレス			携帯 ()			
日本国内連絡先 (本人と速やかに連絡が とれるところ 同上の場合は記入不要)	〒 —			電話 ()			
	メールアドレス			携帯 ()			
学歴	区分	学校名		正規の 修業年限	入学及び 卒業年月日	在学 年数	
	中等教育 (中学校)			年	~ 年 月 月	年	
	中等教育 (高等学校)			年	~ 年 月 月	年	
	高等教育 (大学)			年	~ 年 月 月	年	
	その他			年	~ 年 月 月	年	
	計				年		年
職歴・ 研究歴	勤務先・研究所等の名称 ※直近の勤務先等から順に記入			役職	従事期間	年数	
					~ 年 月 月	年	
					~ 年 月 月	年	
					~ 年 月 月	年	
					~ 年 月 月	年	
					~ 年 月 月	年	
	計					年	

※事前審査を通過した後、本プログラムに出願することができます。

なお、事前審査申請時には選考手数料は不要です。お間違いないようご注意ください。

※事前審査の結果通知：令和2年6月30日(火)郵送予定

No.

※この欄は記入不要です。

東京都立産業技術大学院大学 令和2(2020)年度 AIIT シニアスタートアッププログラム 受 講 願 書

写真貼付

縦4cm × 横3cm
上半身、脱帽、正面
向き、3カ月以内で
撮影したもの

※写真の裏面に
必ず氏名を記入

ふりがな			
氏名			
性別	生年月日	昭和	年 月 日 歳
(令和3年3月31日現在)			

現住所	〒 -		
連絡先 (必須)	電話番号 ()	日中の 連絡先	名 称 ()
	携帯電話 ()		電話番号 ()
メールアドレス			
学 歴	高校	国立 公立 私立 外国 国名:	高等学校 年 月 日 卒業 中退
	大学	国立 公立 私立 外国 国名:	大学 学部 年 月 日 卒業 学科 専攻 中退
	その他	国立 公立 私立 外国 国名:	年 月 日 卒業 中退
職 歴	年 月 ~ 年 月		
	年 月 ~ 年 月		
	年 月 ~ 年 月		
現在の 職業	勤務先所在地 〒 -	勤務先・所属	職 名 電話 ()

■「収納証明書」部分を切り取り、以下の枠内に添付してください。

添付場所

※コンビニエンスストアで支払った場合、レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書」を受け取ってください。「入学検定料・選考料取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、受講願書(様式2)の所定箇所に貼付して、他の出願書類と一緒に発送してください。

※クレジットカードで支払った場合(その他のペイジー対応ATM等もあり)、支払い後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された[受付番号]と[生年月日]を入力して【収納証明書】を印刷してください。印刷した【収納証明書】を出願書類に同封してください。

※事前審査対象の方は、事前審査を通過後、本プログラムに出願することができます。なお、事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。お間違いないようにご注意ください。

No.

※この欄は記入不要です。

東京都立産業技術大学院大学 令和2(2020)年度 AIIT シニアスタートアッププログラム 科目受講申請書

ふりがな		生年月日	年 月 日
氏名			歳 (令和3年3月31日現在)

■受講を希望する選択科目の第1希望～第4希望まで順位を付してください。(第2希望までは必須です。)

※当プログラムは、必修1科目に加えて選択科目を最低2科目受講する必要があります。

ユニット名	区分	科目名	受講希望科目
基礎科目 (講義・演習型科目)	【必修科目】	東京経済事情	必 修
	【選択科目】	経営戦略要論	第 希望
	【選択科目】	マーケティング要論	第 希望
	【選択科目】	ファイナンス要論	第 希望
	【選択科目】	ITイノベーション要論	第 希望

■3科目以上受講を希望する場合、☑を記入

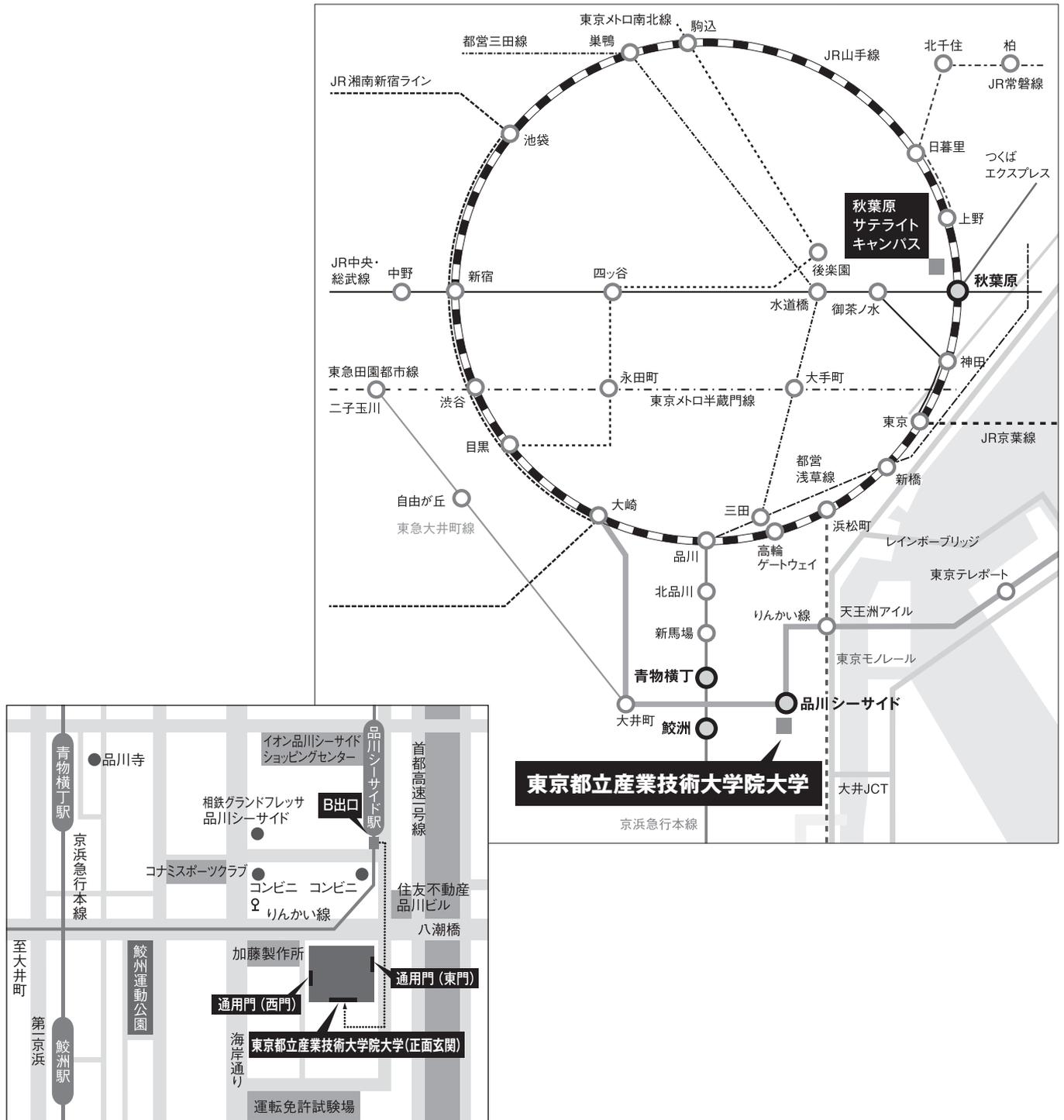
※選択科目について、3科目以上の受講を希望する方は、以下の欄に☑を記入してください。選考に合格し、定員の状況により受講が認められることがあります。ただし、3科目以上の受講を希望しない場合は、☑を記入しないでください。

なお、受講が認められた後は、科目を辞退することはできません。

第3希望の選択科目を受講希望します

第4希望の選択科目を受講希望します

■ 本学への交通アクセス・周辺地図



■ 品川シーサイドキャンパス

電車

- りんかい線 / 品川シーサイド駅下車 徒歩3分
- 京浜急行線 / 青物横丁駅下車 徒歩10分
- 京浜急行線 / 鮫洲駅下車 徒歩9分

都営バス

- 都立産業技術高専品川キャンパス前] 下車
徒歩 2分
- 品川駅港南口 ↔ 八潮パークタウン [品91系統]
 - 品川駅高輪口 ↔ 大井競馬場 [品93系統]
 - 大井町駅東口 ↔ 八潮パークタウン [井92系統]

■ 秋葉原サテライトキャンパス最寄り駅

電車

- JR山手線、京浜東北線、総武線 / 秋葉原駅下車 徒歩1分
- つくばエクスプレス / 秋葉原駅下車 徒歩2分



東京都立
産業技術大学院大学

■問い合わせ先

東京都公立大学法人
東京都立産業技術大学院大学 管理部管理課 OPI 企画運営係
AIITシニアスタートアッププログラム担当

〒140-0011 東京都品川区東大井1-10-40

E-Mail : senior-startup@aait.ac.jp

U R L : https://aait.ac.jp/master_program/certification_program/senior_startup/



2020年

5月30日 土

参加無料!
Web
講演会



文部科学省 職業実践力育成プログラム (BP)

第1回AIITシニアスタート アッププログラム 講演会と説明会

東京都立産業技術大学院大学では、起業に必要な知識及びスキルを短期間で修得することを目指す「AIITシニアスタートアッププログラム」の開講を8月に予定しています。それに先立ち、起業をテーマに講演会(無料)をWeb開催いたします。また、「AIITシニアスタートアッププログラム」の受講に興味・関心のある方には概要説明もごさいますので、ぜひご参加ください。

対象 シニアの起業に関心のある方、
学び直しを考えている方等
※本催しに興味がある方 (定員 250名)

お申し込み方法 以下のURLからお申し込みください。(先着順)
https://aiit.ac.jp/master_program/certification_program/senior_startup/



お問い合わせ 東京都立産業技術大学院大学
管理部管理課 OPI 企画運営係
Mail : opi@aiit.ac.jp

川田 尚吾 氏

東京都立産業技術大学院大学客員教授/
投資家 / (株) ディー・エヌ・イー顧問

1996年に東京都立大学大学院工学研究科博士課程を終了し博士(工学)を取得。同年マッキンゼー入社。情報通信産業を中心に、ヘルスケア、金融、製造業などの領域での戦略立案に従事。1999年に株式会社ディー・エヌ・イーを共同創業し取締役就任。以降COOとしてプロダクト開発、マーケティング、営業の各部門の立上げ/統括を行い一連の事業立ち上げをリード。2008年に非常勤取締役、2011年に顧問(現任)。現在は日米欧のスタートアップへの投資と支援を中心に活動。



加藤 由将 氏

東急株式会社/
フューチャー・デザイン・ラボ 課長補佐

2004年、東急電鉄株式会社(現・東急株式会社)に入社。2007年、社内新規事業「東急電鉄 住まいと暮らしのコンシェルジュ」のコンセプトデザインから現場運営まで携わる。2012年、青山ビジネススクールでアントレプレナーを専攻し、スタートアップに関する研究を開始。2015年、東急グループとスタートアップとの事業共創プログラム「東急アクセラレートプログラム(TAP)」を立ち上げ、運営統括を務める。2019年、テクノロジーの社会実装にフォーカスした「Shibuya Open Innovation Lab(SOIL)」を開設し、運営統括を務め、スタートアップ、大企業、VCなどのステークホルダーをネットワークし、東急に限らず日本社会・経済のイノベーションを促進する。



プログラム

13:00	▶ 開会挨拶
13:05	川田 誠一 本学学長
13:05	▶ 基調講演
	「スタートアップとは何かーその技術と資本の実際」
13:55	川田 尚吾 氏 投資家 株式会社ディー・エヌ・イー顧問
14:00	▶ 特別講演
	「大企業とスタートアップのオープンイノベーション」
14:50	加藤 由将 氏 東急 株式会社 フューチャー・デザイン・ラボ 課長補佐
14:50	▶ パネルディスカッション
	「プロジェクト学修 (PBL) を通じての学び」
15:40	(パネリスト) 本学創造技術専攻2019年度修了生 本プログラム2018年度修了生 本プログラム2019年度修了生 (モデレーター) 戸沢 義夫 本学特任教授・名誉教授
15:45	▶ 令和2年度AIITシニアスタートアップ
16:00	プログラム説明 板倉 宏昭 本学教授

※プログラム及び出演者については、一部変更となる場合があります。

主催 東京都立産業技術大学院大学

後援 東京都/
公益財団法人東京都中小企業振興公社

2020年

6月13日土

参加無料!
Web
講演会



文部科学省 職業実践力育成プログラム (BP)

第2回AIITシニアスタート アッププログラム 講演会と説明会

東京都立産業技術大学院大学では、起業に必要な知識及びスキルを短期間で修得することを目指す「AIITシニアスタートアッププログラム」の開講を8月に予定しています。それに先立ち、起業をテーマに講演会(無料)をWeb開催いたします。また、「AIITシニアスタートアッププログラム」の受講に興味・関心のある方には概要説明もごさいますので、ぜひご参加ください。

対象 シニアの起業に関心のある方、
学び直しを考えている方等
※本催しに興味がある方 (定員 250名)

お申し込み方法 以下の URL からお申し込みください。
(先着順)
https://aiit.ac.jp/master_program/certification_program/senior_startup/



お問い合わせ 東京都立産業技術大学院大学
管理部管理課 OPI 企画運営係
Mail : opi@aiit.ac.jp

主催 東京都立産業技術大学院大学

後援 東京都/
公益財団法人東京都中小企業振興公社

プログラム

13:00	▶ 開会挨拶
13:05	川田 誠一 本学学長
13:05	▶ 基調講演 「R&D 活動の障害」
13:55	西 美緒 氏 東京都立産業技術大学院大学客員教授/ 元ソニー(株) 業務執行役員上席常務
13:55	▶ 特別講演 「シニア起業のチャンスは異業種にある」
14:45	宇喜多 義敬 氏 宇喜多白川医療設計(株) 代表取締役社長 国立大学法人 山梨大学客員教授
14:45	▶ 令和2年度AIITシニアスタートアップ プログラム説明
15:00	板倉 宏昭 本学教授

※プログラム及び出演者については、一部変更となる場合があります。

西 美緒 氏

東京都立産業技術大学院大学客員教授/
元ソニー(株)業務執行役員上席常務

1966年ソニー(株)入社後、燃料電池、電気音響変換器(スピーカー、ヘッドホン等)のための材料、リチウムイオン二次電池に関する研究開発に従事。1991年世界初のリチウムイオン二次電池実用化、商品化。1999年リチウムイオンポリマー二次電池も商品化に成功。2006年ソニー(株)退社後、国内外のいくつかの企業、研究機関でコンサルタントあるいは顧問としての業務に従事し、現在に至る。



宇喜多 義敬 氏

宇喜多白川医療設計(株) 代表取締役社長
国立大学法人 山梨大学客員教授

1974年、ソニー入社。84年、世界初のポータブルCDプレーヤー「CDウォークマン」開発。90年、世界初の電子ブックプレーヤー「Dataディスクマン」開発。98年世界初のネット型情報端末「Infocall」開発。04年に電子ペーパーを世界で初めて採用したNet型電子書籍リーダー「LIBRIe」を開発。06年テルモ入社、研究開発センター副所長、09年に執行役員就任。2011年、医療機器開発のコンサル会社UPMコンサルテーション設立。2014年、医療機器開発を手掛ける宇喜多白川医療設計株式会社設立。2016年、国立大学法人 山梨大学客員教授に就任。2018年株式会社UPMC設立

